

飼料増産重点地区における取組について

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題		
北海道	八雲町	(有)八雲 フード デザイン	1番草からサイレー ジ調製を開始し、良 質なTMRを安定的 に供給(18t/日)す る。	・畜産担い手育成総合整備事業によ る草地整備の実施。(8.8ha) ・適期作業による良質粗飼料の確保 ・適正なサイレージ調製の実施。	・畜産担い手育成総合 整備事業による草地整 備の実施。(8.8ha) ・1日/20tのTMRの 供給	・好天により良質な飼料 確保ができた ・昨年に比して適期収穫 が出来た	・飼料の高騰に対応する ため、粕類の安定的利 用を検討中 ・TMR価格の抑制と作 業の効率化 ・土地の面的集積	・畜産担い手育成総 合整備事業による草 地整備の実施。 (10.4ha) ・1日/20tのTMR の供給
	倶知安 町、黒松 内町ほか	ようてい 農協	草地整備面積 47.66ha(基本型 38.66, 公社型9.0)	草地畜産生産性向上対策事業による 草地整備50haの実施	草地整備面積34.2ha	概ね計画どおりの草地整 備を実施	補助事業の有効活用により計画的な草地整備 の実施	草地畜産生産性向 上対策事業による草 地整備57haの実施
	長沼町	長沼農 協	飼料用稲わらの供 給量395t(2集団、 個人)	2集団と個人により120haで400tの 飼料用稲わらの供給を計画	2集団と個人により120 haで399tの飼料用稲 わらを生産。	ほぼ計画どおりの供給を 達成できた。	引き続き、飼料用稲わら の安定供給に努める。	集団及び個人により 120ha、400tの飼 料用稲わらを生産。
	深川市、 雨竜町、 北竜町	きたそら ち農協	草地整備面積 116.6ha(基本型)	高位生産性向上対策事業を活用し、 計画的な、草地更新の樹立を図る	H19年度実績無し	草地整備の計画的な実 施検討等の遅から、本年 度事業採択に至らなかつ た。	本事業を活用し、計画的 な草地整備を図る。	草地整備147ha (基本型)を実施。

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考	
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題			今後の対応
北海道	猿払村、 浜頓別 町	東宗谷 農協	<ul style="list-style-type: none"> ・TMRの供給(40t/日) ・新規浜頓別地区2ヶ所のTMRセンターの圃場マップ整備 ・公共牧場(農協)からTMRセンター1箇所オペレータ支援協議 ・サイレージ調整時の備車を地元企業に依頼 ・公共牧場育成預託牛舎2棟・200頭収容可能設置(合計400頭規模) 	<ul style="list-style-type: none"> ・TMR飼料供給時における乳牛への影響について、調査を実施する。 ・関係機関による乳成分の分析及びTMR飼料設計のすり合わせを実施する。 ・浜頓別畜産センター及び猿払畜産事業所において、哺育ロボットによる哺育・育成預託事業に取り組む。 ・コントラクターとTMRセンターの連絡協議会の設置により、業務の連携を図り、効率的運用を行う。 ・規模拡大(法人の設立)に伴う関連施設(飼料管理・調整)投資の削減を図り、飼料の供給をTMRセンターから受けることで、既存TMRセンターの利用農家数を増加させる。 ・猿払村北部地区TMRセンターの設立協議会(10戸)を設置し、新規TMRセンターの設立について検討する。 ・浜頓別町下頓別地区における気象データ収集を産学協同(農業試験場・普及センター・稚内開発建設部・ホクレン・農協)により行い、デントコーンの生育環境の調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東宗谷大規模投資支援協議会による、農場の巡回調査を実施。(8月から12月の間に月1回、3班体制(エバグリーン・みどりの開明)で実施。) ・哺育ロボットにおける哺育頭数(浜頓別地区45頭/月 猿払地区15頭/月) ・東宗谷TMR・コントラクター連絡協議会を設立(平成20年1月16日設立) ・浜頓別地区及び猿払地区において、サイレージ用とうもろこしの栽培試験を実施(5㎡×3か所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼槽に飼料がない状況が多いため、1頭当たりのTMR給与量が少ない。 ・給水量が少ないため、不凍栓の口径を大きくする必要はある。 ・牛が届く範囲に飼料がないので、餌寄せの回数を多くする必要はある。 ・TMR配送置場及び保管の状況が不適切であるため、直射日光が当たらないようシート等で覆いを掛ける必要がある。 ・ミキシングされる飼料の粗飼料と濃厚飼料の混合割合がまばらであるため、攪拌時間を粗飼料の量に合わせて行う。 ・ミキシングの際に使用する計量器があっていないので、定期的なチェックを行う。 ・哺育ロボットの衛生管理を徹底するために、細かなメンテナンスを行う必要がある。 ・ほ場によりサイレージ用とうもろこしの収量の格差が大きかった。 ・サイレージ用とうもろこしへと更新する前に、投入できる家畜糞尿量の限界点を調査する必要があった。 ・東宗谷TMR・コントラクター連絡協議会は、作業機械の貸し借りに重点を置いているが、今後、購入飼料の一括化も視野に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳成分のデータの報告については、費用負担を行っているが、1年間の時限対応とする。 ・哺育ロボットについては、大型法人の業績も含めデータの整理を図る。 ・東宗谷TMRコントラクター連絡協議会においては、草地更新については、低コストで実施する工法及び共同購入による経費の削減について検討する。作業の補完体制については、作業料金の決定を行っているが、部品の在庫調整等に検討を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TMRセンター関係については、猿払TMRセンター(株)を設立し、各種構築物の建設を実施する。草地管理について、圃場マップ及び圃場台帳を作成し、管理の強化に努める。 ・外部からコンサルタントを投入し、乳牛飼養管理の適正化について再度見直しをする。 ・サイレージ用とうもろこしの栽培について、関係機関の調査の継続実施をお願いするとともに、東宗谷TMR・コントラクター連絡協議会の会員の中から10ha規模、組合員から4ha規模の栽培試験を実施する。 ・また、東宗谷TMR・コントラクター連絡協議会の活動の充実を図る。 	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題			今後の対応
北海道	紋別市	オホーツクはまなす農協	収穫面積355.7ha(1番草175.3ha、2番草104.2ha、デントコーン76.2ha)	昨年は降雨など天候不順の影響により作業が困難とはなったが、その反面、良質粗飼料の安定によりロスが減少し、効果は17年度と同等ではあった。継続した効果がえられたこと、生産調整の影響もあり、特に構成員の収穫において必要以上の面積確保はいらぬことになる。そのことで余力が発生することから、受託面積の確保とともに増大が必要となり、受託面積を含めた収穫面積としては360ha(以上)を予定としている。	収穫面積404.5ha(1番草167.0 2番草120.3 3番草25.0 デントコーン92.2)	施行内容として、受託作業の比率が高くなり、前年より20%の伸びとなっている。また、構成員の施行面積においてはほぼ、前年と同様だが、不順な天候が少なかったことから3番草の施行もおこなったのが実績増へとつながった。	作業の円滑化(適性作業時兼)良質粗飼料の継続安定機械消費を見越した受益者(構成員)負担の軽減収穫以外への作業拡大	収穫面積400ha以上確保 堆肥散布等の作業	
	上湧別町	えんゆう農協	農協運営のコントラクターによる牧草収穫延面積2,624ha	受託面積の安定を図り、作業体系の運搬に運送会社の大型ダンプを使用する。	農協運営のコントラクターによる牧草収穫延面積2,780ha	牧草収穫の3番草を収穫する面積が増加。組織の機能・能力増強が課題である。	受託面積の安定、作業体系の運搬に大型ダンプを引続き使用する。	農協運営のコントラクターによる牧草収穫延面積2,700ha	
	浦河町	荻伏稲わら生産組合	飼料用稲わらの供給(123t)	地域内肥育農家の要求量に対応するため、稲わらを収集するほ場の拡大を図っていく。これにより前年度の供給量(123t)を確保する。	飼料用稲わらの供給(120t)	米の生産調整による作付面積の確保が課題である	契約数量の確保が困難な場合は、組合員以外の水稻農家との連携を図って、稲わら収集するほ場の確保に努めていく	飼料用稲わらの供給(120t)	
	新得町	新得町・新得町農協	TMRの供給(45t/日)	コントラクターの活用による適期の肥培管理及び土壌分析による圃場の適正管理と補助事業を活用した計画的な草地更新を実施し、自給飼料の増産を目指す。	TMRの供給(46t/日)	飼料生産基盤の効率的利用と適正管理、飼料作成作業の労働力軽減が図られた。	コントラクター部門との連携を強化し、適期に行うことにより良品で収量の安定した自給飼料の更なる向上を図る。	コントラクターの活用による適期の肥培管理及び土壌分析による圃場の適正管理と補助事業を活用した計画的な草地更新を実施し、自給飼料の増産を目指す。	
	幕別町(忠類)	忠類農協	収穫作業 2,025ha 散布作業 34件 63回	収穫作業 2,033ha 散布作業 27件 38回	収穫作業 2,212ha 散布作業 19件 28回	粗飼料品質の均一化、飼料作業労働の短縮による飼養管理向上。地力増進に向けた計画的な堆肥の投入。	粗飼料品質の均一化、飼料作業労働の短縮による飼養管理向上の推進。地力増進に向けた計画的な堆肥の投入の推	収穫作業 2,300ha 散布作業 25件 35回	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
北海道	浜中町	浜中町 農協	草地整備面積724ha 更新率5.3%(生産性 向上対策事業 232ha、畜産担い手 育成総合整備事業 492ha)	草地整備面積 845.55ha 更新率 6.2% (生産性向上対策事業 250ha、 畜産担い手育成総合整備事業 595.55ha)	草地整備面積523.55ha 更新率3.9% (生産性向 上対策事業190ha、畜産 担い手育成総合整備事 業333.55ha)	燃料資材等高騰のため 草地整備は計画を下 回った。	引き続き補助事業等を 活用して、計画的な草地 整備を実施	草地整備面積 404.1ha 更新率3.0% (生産性向上対策事 業167ha、畜産担い 手育成総合整備事 業237.1ha)
	別海町	別海農 協	草地整備面積 再編整備 981.57ha 合 計 981.57ha	引き続き補助事業等を活用して、計画 的な草地整備を実施。 19年度整備面積 1,081.7ha	草地整備面積 生産性向上対策事業 250.9ha 再編整備型1223.9ha 合計 1474.8ha	概ね計画どおりの草地整 備が実施された。	計画的な草地整備の実 施による自給率の向上と 高生産性草地への転換 を図る。	草地整備面積 生産性向上対策事 業179.7ha 再編整備型976.5ha 合計 1156.2ha
	下川町	(有)下川 フィード サービス	良質自給飼料を主と した飼料設計によ り、個体は健康で乳 量増の結果を得た。	・サイレージ用とうもろこしの作付 226ha。 ・牧草の適期収穫。	とうもろこしの収穫量 は、干ばつの影響で平 年の約80%となる。牧 草の収穫量も干ばつ等 で減収したが、良質なサ イレージを収穫する。	概ね必要量は確保し、飼 料設計(乾物)CS6.5kg、 GS6.5kg。CSの割合を 高め、配合飼料高騰に対 応する。	CSの混合割合をさらに 高め、TMRのコストを下 げる。	サイレージ用とうもろ こし作付、6ha増。 コーンプランター1台 追加導入。 バンカーサイロ(1620 m ³)2基増設。 自走式モアコン1台 導入。
	愛別町	愛別町 稲発酵 粗飼料 生産組 合	WCSの作付面積 24.2Ha。供給量331.2 トン	H18年は、H19年に予定していた目標 面積の25haを前倒しでほぼ達成し、気 象条件にも恵まれ、平年作を上回る 単収があった。これに伴い、畜産農家 から前年比3割減の供給縮小の要望 が出され、H19年は、18haの作付を予 定している。	WCSの作付面積 21.4Ha。供給量316.2トン	例年、ラッピング後の発 酵段階で製品の傷みが 生じ、ロスが出るため、本 年度は、収穫の段階で、 稲藁をより短く裁断する ことによって、製品の傷 みを最小限に抑えること ができた。	品質の保全に細心の注 意を払う。また、畜産農 家での利用増を推進す る。 将来的には専用種の導 入によるコスト削減を 図っていきたい。	WCSの作付面積 24Ha。供給量330トン
	美瑛町	美瑛町	TMRセンター向け の草地整備改良、施 設整備等を実施。草 地整備改良61.1ha、 飼料畑整備15.94h a、施設用地造成、 バンカーサイロ、飼 料調製庫整備、農機 具導入等。	年間を通じ良質な飼料の安定的供給 を行う。(55.2t/日)	良質粗飼料の安定供給 のため草地整備改良を 実施。19年8月から(有) ジェネシス美瑛によるT MRの供給を開始(55t/ 日)	概ね計画どおり施設、草 地等の整備が完了。	良質粗飼料の安定的生 産により、引き続き構成 員の飼料調製作業の軽 減を図る。	今後も補助事業等 を活用して、計画的 な草地整備を実施 するとともに、年間を 通じ良質な飼料の確 保と安定的供給を行 う。(55t/日)

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
北海道	湧別町	(有)アグリサポートばろう	・平成18年8月からTMRの供給を開始(43.5t/日) ・計画に基づく草地更新の実施(50ha)	・計画的な草地更新により粗飼料品質の向上を図る(50 30ha/年)。 ・コスト低減に向け、飼料用とうもろこしの作付面積を拡大し、収量向上を図る(206 230ha)。 ・自給飼料をベースに良質TMRを安定的に供給(43.5 50t/日)。	・計画に基づく草地更新の実施(面積29.4ha) ・飼料用とうもろこし面積の拡大(255ha) ・TMRの安定供給(51.9t/日)	概ね計画どおり取り組みを実施。	H20年度の取り組みに向けた研修会を2月に開催。	・計画的な草地更新により粗飼料品質の向上を図る(29.4 30ha) ・コスト低減に向け飼料用とうもろこし面積の拡大を図る(255 260ha) ・良質TMRの安定供給
	新十津川町	新十津川町	第1・2牧区放牧、第3・4牧区肥料散布及び掃除刈を実施。	町内畜産振興協議会と密接な連携の下、放牧を奨励する。また、草地の掃除刈り及び肥料散布による維持。	計画どおり実施(施肥・掃除刈面積16.5ha)	放牧時期を早めて利用促進に努めた。	早期の放牧による草地の生育遅れを放牧頭数等で均衡を計る。	放牧時期を早め、牧区の利用を促進することにより、畜産農家の労力の低減を図る。
	稚内市	沼川農協	18年11月からTMRの製造供給を開始する。(21.5t/日)	・適期収穫を図るため、草地マップに基づく、ほ場毎の草地管理を実施し、収穫作業においても草種毎に収穫順番を決定する。 ・乳量増産については、ホクレン及び普及センターの協力のもと、乳質・乳成分を分析し、良質粗飼料を設計することで、1頭当たり乳量を高める。	・TMRの製造供給が、27t/日(545頭分)。 ・1日の1頭当たり乳量が6戸平均で、27.7kg(H18年度)から29.0kg(平成19年度)に増加している。	・グラスサイレージを別のバンカーサイロのものに切替える際、乳量の一時的な減少がある。 ・飼料及び生産資材が高騰していることでTMRの供給価格が増加。	・グラスサイレージ調整時、ほ場毎に、どのバンカーサイロに詰めたかを正確に把握することで、グラスサイレージ切替時に大きく栄養価が変わらないようにする。 ・サイレージ用とうもろこしの栽培を検討。(平成20年度に15haを作付け予定)	・草地更新の計画的な実施により良質粗飼料を確保する。 ・関係機関の協力のもと1頭当たり乳量増産を図る。
	更別村	有限会社アグリサポートさらべつ	計画していた機械類を導入。播種作業面積として草地更新39ha、コーン播種59ha計98ha(計画対比163%)、粗飼料収穫作業647ha(計画対比120%)、散布作業1748ha(計画対比99%)の実績であった。	個別訪問の実施、時期的な作業取り纏めをファックス送信する。粗飼料収穫前には全体会議を実施し普及啓蒙に努める。堆肥散布作業については、JAより堆肥センター事業の一部を業務受託し利用者の利便性向上と作業の効率化を図る。	計画していた機械類を導入。播種作業面積として草地更新18.7ha、コーン播種99.2ha計117.9ha(計画対比102.5%)、粗飼料収穫作業564.2ha(計画対比103.5%)、散布作業1748ha(計画対比96.3%)の実績であった。	実績としては、散布作業が計画に届かなかったものの他の作業は計画以上の実績となった。個別訪問・時期的な作業取りまとめ等地道な努力がこのような実績をもたらしたと評価する。	個別訪問・時期的な作業取りまとめはもちろんのこと、やはり未利用者の取りこみに営業努力する。また、親切・丁寧をモットーとした受託作業の徹底を図る。	個別訪問による未利用者の利用促進を図る。また、アンケート調査を実施し会社に対する意見要望を調査する。特に播種作業を重点取り組みとして推進する。
	陸別町	陸別町農協、陸別町コントラクター利用組合ほか	昨年度に引き続き構成員の作業を受託。受託面積延べ654ha。	陸別町コントラクター利用組合の受託面積の拡大を図るため1月に運営協議会を開催。受託面積延べ680haを計画。作業効率を上げるため新たな機械を導入する。	計画どおり農業機械を導入した。昨年度に引き続き、構成員の作業を受託。受託面積延べ686ha。(前年度比105%)	昨年度と同様、構成員の飼料調整作業にかかる時間・労力を軽減することにより、飼養管理の向上が図られた。	作業効率を上げるため新たな機械を導入する。	引き続き、構成員の飼料調整作業にかかる時間・労力を軽減することにより、飼養管理の向上を図る。

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考	
				計 画	実 績	評価・課題			今後の対応
北海道	足寄町	足寄町	草地更新150ha、 草地整備274ha、 牧柵整備6,000 m、牧道整備1,10 0m、放牧酪農ネット ワーク交流会の開 催	草地更新200ha、草地整備228ha、 草地造成30ha牧柵整備2,500m、放 牧酪農ネットワーク交流会の開催	草地更新159.7ha 草地整備207.99ha 草地造成12.8ha 牧柵整備1,000m 放牧酪農ネットワ ーク交流会の開催	コストの軽減を図り、助成 (補助)金に頼らない生産 利用体制の構築		草地更新150ha 草地整備271.7ha 草地造成14.4ha 牧柵整備1,000m 放牧酪農ネットワ ーク交流会の開催	
	広尾町	酪農家 集団、機 械利用 組合等	・TMRの供給 成牛14.5t/日 育成 4.7t/日	在庫としてある一昨年の粗飼料は安 価で町内酪農家に供給し、ルーサン 播種、デントコーン作付け面積拡大に より購入飼料の低減を図り、TMRの 粗飼料自給率を向上させる事により、 センター収支の適切な運用と、適切な 在庫管理を図る。牧草の早期刈取り により、高いTDN飼料の確保を図り、 飼料効果を高める。	TMRの供給 6件 成牛23.0t/日 育成 4.9t/日 平成19年作付 コーン100ha 新播草地 30ha 経年草地 184ha	・ルーサン混播草地は思 うようにルーサンが生え なかった。 ・作業員も慣れコーンは 高品質のサイレージが出 来た。TDN量は確保出 来た ・まとめ買い等によりコス ト低減に努めたが飼料の 高騰に追いつかずコスト を下げるまでには至らな かった	・3年目に入り漸く軌道に 乗ってきた感がある。1 件増えた事により在庫量 も少なくなり効率は良 くなっている ・ルーサン混播、コーン の作付けを継続しタンパ ク源の確保を図りつつコ スト低減に努め安定価格 での飼料供給に努める	・20年作付け コーン 97.5ha 新播草地 36.5ha 経年草地180.0ha ・牧草の適期収穫に 努め高いTDN飼料 の確保を図る ・分析による肥培管 理を行う	
	大樹町	大樹町 農協	コントラクターの利用 延べ日数382日、草 地整備305ha、土壌 診断等に基づく草地 の肥培管理、飼料調 製貯蔵施設整備、ゆ とり農業推進会議の 開催など	コントラクターの利用延日数400日、 草地造成21ha、草地整備180ha、 ゆとり農業推進会議の開催、 草地の土壌診断事業の実施、	コントラクターの利用延 日数390日、草地造成 19ha、草地整備259ha、 ゆとり農業推進会議の 開催、草地の土壌診 断事業の実施、	概ね計画どおり進行中で あり、このことにより、作 業効率と飼料の品質向 上が図られた。コントラ クター事業の充実が必 要。	草地生産性向上のため の飼料増産運動の展開	コントラクターの利用 延日数400日、草地 造成8ha、草地整備 158ha、ゆとり農業 推進会議の開催、草 地の土壌診断事業 の実施、	
	由仁町	由仁町 農業協 同組合		水田地帯における肉用牛導入の積極 的な推進と計画的な草地の造成整 備、稲わら集積拡大の体制整備に取 組む。	・肉用牛新規導入農家 3戸(H19年度末肉用 牛飼養農家数5戸)・草 地造成17.2ha・草地 整備20.9ha・飼料用	計画(草地整備15ha、飼 料用稲わら生産30t)ど おり実施	引き続き、肉用牛の導入 及び計画的草地整備等 による粗飼料の安定確 保に努める。	水田地帯における 肉用牛導入の積極 的な推進と草地造成 整備、耕畜連携によ る稲わら集積拡大	
	苫前町	農事組 合法人ア グリラン ド	TMRセンターを整 備し、平成18年8月 からTMRの供給を 開始	・講習会の開催等により、技術の向上 を図る。 ・デントコーンの作付面積を増やし、濃 厚飼料を抑えたTMRを作成する。	デントコーンの作付けを 20ha程増やし、更に減 肥区を設けた作付けを 実施した。	干ばつによる反収の減少 はあったが、20haの作 付面積増により総量は前 年並みは確保できた。ま た、ほ場により減肥によ る栽培も可能との結果を 得た。	収穫したデントコーンを1 00%使い切るTMRメ ニューをいかに作り上げ るか。	更にデントコーンの 作付けを10ha程増 やしたい。同時に、 減肥のほ場も増やし たい。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価・課 題	今後の対応		
北海道	北見市	北見市・きたみらい農業協同組合	草地整備面積3ha、家畜糞尿処理施設の整備	草地造成2.54ha草地整備76.62haを実施する取組で進んでおり、家畜排泄物の高度化処理と堆肥舎及び規模拡大を図るためH20年建設予定の畜舎調査測量等を計画しています。	再編整備、環境整備で草地造成 2.54ha 草地整備81.16ha 合 計83.70ha 堆肥舎903㎡高度化処理1,046㎡製品庫765㎡	当初の計画どおり草地整備と家畜ふん尿施設整備を実施。	利用農家の次年度計画地確認と事業実施に対する意見聴取を3月に開催。	草地造成0.93ha草地整備98.51haを実施計画、畜舎建設整備も予定している。	
	釧路市	阿寒農業協同組合	実施計画の策定	畜産担い手育成総合整備事業による実施 ・TMRセンターの整備 ・草地造成 2.54ha ・草地整備 52.5ha ・飼料畑整備 12.9ha	畜産担い手育成総合整備事業による実施 ・TMRセンターの整備 ・草地造成 4.71ha ・草地整備 122.64ha ・飼料畑整備 12.11ha	概ね計画どおりの草地整備を実施	計画的草地更新を進め、良質粗飼料を確保する。	畜産担い手育成総合整備事業による実施 ・TMRセンター供給開始 ・草地造成 2.5ha ・草地整備 73.07ha ・飼料畑整備 25.66ha	
青森県	横浜町、七戸町	七戸畜産農業協同組合	こだわり牛肉のPR無農薬・無化学肥料トウモロコシの安定生産技術の向上	細断型ロールペーラの活用によるトウモロコシサイレージ周年給与体制の強化を図る。	大型機械体による無農薬・無化学肥料トウモロコシサイレージ調製省力化	生産面で収量は目標を達成したものの、雑草混入率が高い。	マルチによる雑草混入率を低減させ、TDN率の向上を図る。	引き続き無農薬無化学肥料トウモロコシの安定生産を目指す。	
	横浜町	粗飼料生産集団、町菅田の沢	増頭に伴う計画的な粗飼料生産の実施。	公共事業実施後の管理、利用計画を農家に周知し、牧場経営の安定化を図る。	1.4haの草地造成を実施。	造成・更新により生産性に差が生じており、採草・放牧の調整が必要となった。	効率的な草地利用に向けた作業計画の作成及び牧区の編成。	新たに導入する共同作業機械の効率利用を図る。	
	六ヶ所村、東北町等	らくのう青森農業協同組合、北栄トラクター利用	完全国産粗飼料及び循環資源によるTMRの生産。TMR給与技術の普及・指導。	TMR原料の安定確保のため計画的な草地更新及びトウモロコシ面積の拡大を行う。	サイレージ用トウモロコシを100ha作付。牧草20haの作付。	大型機械体による効率的にトウモロコシサイレージ生産調製が可能となった。また草地更新により生産性が向上した。	TMRの品質評価と酪農家に対する給与指導の実施	大型機械体による生産調整が可能なトウモロコシ畑の新規造成。	
	十和田市	千里平放牧組合	水田放牧1.6ha実施。水田を活用した粗飼料の安定供給。	採草地における計画的な草地更新を進める。	採草地45haのうち5haを更新。	生産性の低下が見られる採草地の更新を計画的に進める必要がある。	計画的に5～10haの更新を進めていく。	生産性向上のために草生悪化の条件では更新を実施するが、施肥及び利用管理の改善について検討する。	
	十和田市、三沢市等	上北郡内関係市町村水田振興協議	現地検討会等により水田放牧の取組みについて畜産農家に周知。	実証展示ほの設置を図り、飼料用稲等水田を活用した飼料生産の普及に努める。	飼料稲専用品種の展示ほ(27a)を設置。収穫作業実演会の開催。	飼料稲専用品種の栽培管理上の資となる。品種数を増やした生産性の検討が必要である。	管内他地区における新規取組の検討。	実証展示ほを増設するとともに、飼料稲新品種の収量性及び給与効果を検討する。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
青森県	今別町	今別町 和牛飼 育組合	水田放牧の取組70a	水田放牧実証ほの設置 70a	・水田放牧実施 70a ・水田放牧に適した 「フェストロリウム」の導 入 ・採食調査、放牧牛牛体 調査の実施	・馴致がうまくいかず、転 牧・退牧が困難だった。	・入牧時の馴致を適切に 実施するとともに、適正 な牧区編成や効率的な 転僕を実施する。	水田放牧実証ほの 設置 70a	
岩手県	葛巻町	(社)葛巻 町畜産 開発公 社	・体験交流受入数 18,900人 ・体験メニューの拡 大(石釜ピザ作り、草 木染) ・隔柵、トイレの整備	・体験交流受入数 20,000人 ・家族体験1泊コースの拡大	・体験交流受入数 28547人	・これまでの取組が評価 され、日本農業賞大賞受 賞	・体験の受け入れ(継続)	・体験交流受入数 30,000人	
	八幡平 市	(農)岩手 山麓デ ィーサ ポー ト	・飼料作物の生産 牧草 151.1ha トウモロコシ 29ha ・TMR供給4,356t	・飼料作物作付け 牧草142ha、 トウモロコシ38ha ・TMR供給 7,069t	・飼料作物作付け 牧草142ha、 トウモロコシ38ha ・TMR供給 5,210t	・TMR供給によって乳量 増加 ・効率的な作付けほ場計 画、品種選定、熊対策が 課題	・飼料用トウモロコシの 作付け拡大 ・TMR給与量の拡大	・TMR供給 7,026t	
	滝沢村	(社)岩手 県農業 公社	ラップサイレージ供 給 作業面積 10ha	県内全域においてラップサイレージ供 給 作業面積 20ha	ラップサイレージ供給 作業面積 10ha	利用農家の評価は高い。 しかし作業面積の増に伸 び悩んでいる。	利用農家の拡大を図る ため、PRを行なうととも に需要農家を把握する 必要がある。	ラップサイレージ供 給 作業面積10ha 機械作業の優位性 をPRする。	
	金ヶ崎 町	金ヶ崎町 効率的 飼料生 産組合	—	・現地検討会の開催等による面積拡 大 ・飼料作物作付け面積110ha	・現地検討会の開催 ・飼料作物作付け面積 110ha	・関係機関が一体となっ たTMR利用の支援がな されている。	・取組面積の拡大	・飼料作物作付け面 積110ha	
宮城県	宮城県 内全域	社団法人宮城 県農業 公社	11月1日に細断型 ロールベラーによ る収穫実演会を実 施。飼料用トウモロ コシの作付け面積が 減少傾向にあり、作 業受託面積が伸び 悩んで知る。 (H18年6.45ha)	細断型ロールベラー利用促進のた めのPR活動。	11月2日に細断型ロー ルベラーによる収穫 実演会を実施。	参集者には作業の効率 化、品質確保等につい てPRができた。その結果、 飼料用トウモロコシの作 付け面積が減少傾向で はあるが、作業受託面積 が増加した。 (H19年13.29ha)また、獣 害対策としてソルガムの 作付けが増加傾向。	細断型ロールベラー の利用促進。	細断型ロールベ ラー利用促進のた めのPR活動。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
宮城県	宮城県 内全域	社団法人宮城県農業公社、大衡転作受託組合	飼料用稲の実証展示の設置を推進したが、播種した4品種とも発芽不良のため、設置出来なかった。作業受託面積は、公社が103haと前年より15ha増加している。大衡は30haと前年同じである。	省力生産技術の推進、啓発活動。	8月3日に飼料用稲の研修会開催	作業受託面積は、公社が214haと前年より2倍強増加している。大衡は30ha超と前年より増加しているが、機械装備の点から現在の面積が限界である。	公社、大衡とも稼働率は高い状況となっている。当面は、効率的な収穫調整の工夫などが必要。	省力生産技術の推進、啓発活動	
	宮城県 登米市 南方	宮城県南方地域肉用繁殖雌牛生産・拡大・再興戦略会議	・たい肥投入量別の稲WCSの実証栽培し、堆肥センターのたい肥を有効に活用するなど資源循環の推進が図られた。 ・3/19にWCSと水田放牧に関する研修会を実施し、飼料作物増産方策についてPRができた。	稲WCSの普及と飼料用稲の実証栽培情報提供と情報収集	大豆連作障害のクリーニングクローブとして作付け。 8/27にスイートコーンの収穫残さを活用するため、ロールベールサイレイジへの実演を行った。	前作大豆ということでN成分も多く、稲wcsの生育は無肥料でも良好。スイートコーンの残さ給与については使用農薬を考慮する必要がある。	水田を活用した飼料作物生産の推進	水田を活用した飼料作物生産の推進(団地化、稲発酵粗飼料生産の推進)	
	宮城県 栗原市	肉用牛 集団農 家	6/14 現地検討会、随時、現地指導、巡回の実施した結果放牧地面積が7.7haと約5ha増加し、普及啓蒙が図られた。	放牧の推進に向けた啓発活動と現地指導の実施。	簡易パイプハウス牛舎と一体的に利用する電気牧柵を活用した簡易放牧推進に向け、現地研修会並びに関連事業説明会を開催。(8,11,12月開催)	平成20年度事業実施に向け、簡易放牧取組み事例が2件増加する見込。	増頭推進運動と連動し、各種補助事業を活用しながら一体的な取組みを推進する。	簡易放牧地面積12haの目標に向け、各種研修会、検討会実施予定。	
秋田県	北秋田 市	酪農家、JA	補助事業実施に向けた検討を実施	事業実施に向けた検討	草地林地一体的利用総合整備事業の計画策定を実施。	事業実施を契機に、市内に3カ所ある公共牧場の再編に着手することを検討中。	整備事業実施に向けた打ち合わせを行う。	整備事業(草地造成、草地整備、畜舎整備等)の着手を開始する。	
	北秋田 市	北秋田 市		事業計画の策定					
	美郷町	酪農家	生産組織の設立および運営開始(細断型ロールペー1台導入)	生産組織への指導助言等継続支援	トウモロコシの安定的な作付けと生産体制の強化に向けた指導を実施。		引き続き、関係機関による現地指導を実施する。	生産組織への指導助言等継続支援	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
秋田県	秋田市	雄和町 飼料増 産推進 組合、肉 用牛飼 養農家	イネWCS作付面積 実績:34.6ha	耕畜連携の定着化	イネWCS作付面積実 績:30.6ha	耕畜連携による家畜ふん 堆肥の有効利用が図ら れた。	引き続き耕畜連携による 飼料生産体制の定着化 を図る。	イネWCS作付面積 実績:35.0ha	
	羽後町	酪農家、 肉用牛 飼養農 家	草地林地一体的利 用総合整備事業の 計画策定を実施	整備事業の着手	整備事業(畜舎整備等) を実施。	稲発酵粗飼料の生産・利 用について検討中。	来年度の事業実施に向 けた打ち合わせを行う。	引き続き整備事業 (草地造成、草地整 備、畜舎整備等)を 実施	
山形県	朝日町	朝日町	・打合会の実施 ・土づくり協議会の 実施 ・コントラクター組織 の設立(堆肥散布)	・協議会等の実施 ・コントラクター組織の強化	・協議会等の実施 ・コントラクター組織によ る堆肥散布面積 51ha	耕畜連携が推進されてい る。	コントラクター組織におけ る稲わら収集等の作業メ ニューの拡大	・協議会等の実施 ・コントラクター組織 の強化	
	真室川 町	真室川 町コント ラクター 組合	・推進会議の開催 ・WCS収穫面積 8ha ・稲わら収集面積 5ha ・堆肥運搬 20ha	・推進会議の開催 ・WCS収穫面積 8ha ・稲わら収集面積 6ha ・堆肥運搬 20ha	・推進会議の開催 ・WCS収穫面積 6.5ha ・稲わら収集面積 6ha ・堆肥運搬 20h	・WCS面積が減少(機械 故障、他組織が代替)に 繋がっている。 ・収集面積拡大に向けた 機械導入	・大規模稲わら収集に向 け、ロールベアラー導入 の検討	・推進会議の開催 ・WCS収穫面積 8ha ・稲わら収集面積 10ha ・堆肥運搬 20ha	
	山形市、 上山市、 米沢市 他	山形県 酪農業 協同組 合		・課題検討委員会の開催 ・自給飼料関連新技術研修会の開催 ・とうもろこし栽培実習の実施	・課題検討委員会の開 催 ・自給飼料関連新技術 研修会の開催 ・とうもろこし栽培実習 の実施	・自給飼料に向けた意欲 が向上している。 ・効率的作業体系の導入	・細断型RB等の導入検 討	・課題検討委員会の 開催 ・自給飼料関連新技 術研修会の開催 ・とうもろこし栽培実 習の実施	
福島県	阿武隈 南部地 域	営農集 団	簡易草地更新機を 用いた草地更新手 法の実演会の開催 (9/11) 遊休農地の解消約 10ha(県単事業)	草地更新、遊休農地の解消、飼料用 とうもろこし作付拡大、コントラクターの 育成を図る。	県単事業による遊休 農地解消面積 約12ha	重点地区内畜産農家に 対し、技術支援等が実施 され、飼料増産に向けた 啓発がなされた。	技術支援等の継続実 施	各種補助事業の活 用等による飼料増産 推進	
	大玉村	大玉わら 部会	稲わら収集面積 52ha	短期間で畜産農家へ良質な稲わら を確保・供給し、受益面積を拡大す る。			技術支援等の継続実 施	補助事業により導 入した稲わら収集用 機械を活用し、平成 20年度までに60ha の稲わら収集を目 指す。(8haの増)	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考	
				計画	実績	評価・課題			今後の対応
福島県	西郷村	雪割牧場有限会社	飼料作物作付面積45.2ha	自給飼料収穫に係る作業受託を実施し、実施者における自給飼料作付面積を拡大する。	-	-	技術支援等の継続実施	補助事業により導入した飼料作物収穫用機械を活用し、平成20年度までに48.8haの飼料作物作付を目指す。(3.6haの増)	
茨城県	美野里町	美野里町酪農推進プロジェクトチーム	18年12月にマニユアスプレッタを導入し、畜産農家及び耕種農家ほ場への堆肥散布を開始した。	新聞折り込み等により、地域での堆肥散布活動の拡大。	堆肥散布面積5.8haであった。(計画34ha)また飼料作物栽培の実面積246ha(延べ面積389ha)であった。	飼料作物生産は堅調に伸びている。堆肥散布については地域の耕種農家の間で広がっているが、畜産農家の利用は少ない。(個人対応が多い)	耕種農家への堆肥PRと飼料作物生産面積の拡大により堆肥の利用促進を図る。	組合員個々の農地集積により飼料作物栽培面積の拡大を検討中(補助事業による収穫機械等の整備も検討中)	
	日立市 高萩市 北茨城市	JA茨城ひたち繁殖牛部会	耕作放棄地への繁殖牛放牧を実施した。放牧面積4.3ha 放牧頭数32頭 実施農家数10戸	県単事業を活用して放牧面積の拡大を図る。	耕作放棄地への繁殖牛放牧を実施した。放牧面積6.0ha 放牧頭数70頭 実施農家数12戸	耕作放棄地放牧について普及啓発が図られている。また繁殖和牛の生産振興ため繁殖和牛大学を開校した。	次年度以降も継続して、耕作放棄地放牧等を推進する。また、繁殖和牛大学により、地域の繁殖和牛経営の振興を図る。	平成22年度に10haを目標として取組を拡大する。	
	大子町	大子町和牛繁殖経営活性化協議会	放牧利用により繁殖牛頭数の減少が止まった。	県単事業を活用して放牧面積の拡大を図る。	これまで24.5haだった耕作放棄地放牧面積が25.2haに拡大。	繁殖雌牛の増頭と併せた放牧の取組を実施している。	来年度の放牧面積拡大に向けた協議会の実施。	地域における参画農家の拡大を図るとともに、周年放牧に関する技術の検討も行う。	
	常総市	ドリームファーム及び株菅原農園			耕畜連携による飼料用稲の生産及び稲発酵粗飼料の給与 飼料用稲による立毛放牧の実施	耕作放棄されていた休耕田において、飼料用稲の栽培や水田放牧が開始された。	20年度の取組についての検討	水田放牧の拡大と和牛繁殖牛の増頭	平成19年度新規飼料増産重点地区
栃木県	芳賀町	芳賀町飼料稲生産組合	稲発酵粗飼料の作付19.8ha	稲発酵粗飼料の作付22ha以上を目指す。	稲発酵粗飼料の作付25ha	作付け拡大が図れた。低コスト生産が課題。	引き続き専用品種を導入することにより、高収量を確保する。また、低コスト生産の方法も検討する。	作付け面積は現状維持	
	市貝町	(有)JETアグリサポート	とうもろこしの作付38ha イタリアンの作付5.3ha	とうもろこしの作付50ha以上を目指す。	放牧と飼料用稲作付けの取組を検討	とうもろこしの作付拡大を図る。	新たな取組として、地域の水田で稲WCS生産も検討している。	とうもろこしの作付50ha以上を目指す。	
	さくら市	卯の花飼料稲生産組合	稲発酵粗飼料の作付17.2ha	稲発酵粗飼料の作付25ha以上を目指す。	稲発酵粗飼料の作付20ha	機械の能力面で、効率化が難しいが、作付け拡大を図る。	引き続き作付拡大を目指し、新規利用者を増やすため、水田協議会等を通して周知していく。	稲発酵粗飼料の作付25ha以上を目指す。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
栃木県	那須塩 原市	SMK組合	とうもろこしの作付 14.9ha	とうもろこしの作付 15ha以上を目指す。	とうもろこしの作付 15.2ha	作付け拡大ができた。 ・作付面積の拡大および 作業効率の向上	細断型ロールペーラによ る作業の効率化を行うと ともに、奨励品種の導 入、適期作業、適正な肥 培管理等を徹底し、安定 的な生産体制の確保に 努める。	とうもろこしの作付 15ha以上を目指す。
	矢板市	矢板 WCS生 産組合	稲発酵粗飼料の作 付12.5ha	稲発酵粗飼料の作付15ha以上を目指 す。	稲発酵粗飼料の作13ha	収穫機械の導入により効 率的かつ面積拡大が図 られた。	作付け拡大を目指し休 耕田の有効活用を図る。	稲発酵粗飼料の作 付15ha以上を目指 す。
	市貝町	O.M.K フーダー プロダク ション	とうもろこしの作付 32ha イタリアンの作付 8ha エンバクの作付5ha	とうもろこしの作付50ha以上を目指 す。	とうもろこしの作付 32 ha イタリアンの作付 8ha エンバクの作付5ha	作付け面積拡大を目指 す。	飼料自給率向上を目指 すためには、とうもろこし だけではなく、牧草も生 産拡大していく。	とうもろこしの作付 50ha以上を目指す。
	鹿沼市	(有)農 業生産 法人か ぬま	稲発酵粗飼料の作 付 5.24ha 予乾後反収 1900kg/10a	稲発酵粗飼料の作付 8ha以上、供給先8戸を目指す。	稲発酵粗飼料の作付 6ha 予乾後反収 1810 kg/10a 供給先3戸	反収の向上と利用農家 の拡大が課題	新規利用者に対する給 与指導の実施と利用拡 大の推進 新品種導入の検討	稲発酵粗飼料の作 付 8ha以上、供給先8戸 を目指す。
	足利市、 佐野市	足利市 南部地 域(久 野、筑 波、御 厨)、佐 野市南 部	稲発酵粗飼料の作 付 5ha	稲発酵粗飼料の作付 10ha以上を目指す。	稲発酵粗飼料の作付 7.4ha	肥育用飼料としての成分 分析と適切な給与技術 の確立が課題。 今後は耕種農家を巻き 込んでいくことが課題。	地域の中で、小麦を作付 けしなかった農家を中心 に推進を図り、栽培管理 = 耕種農家、収穫調整 = 畜産農家の役割分担 のもと、取組拡大を目指 していく。	稲発酵粗飼料の作 付 10ha以上を目指す。
	那須町	那須の 農	・検討会開催(4 回)、実証調査 (WCS、たい肥等)、 モデル事業開始 ・法人設立(3月予 定)	・コントラクターの実践 ・機械整備事業実施	・モデル業開始WCS、た い肥等) ・法人設立(3月)	・検討会等を通じ組織化 ができた。 ・生産機械の導入が課題	・生産流通コスト低減の ための、生産技術の向 上や生産流通用機械等 の整備に取り組む。	・コントラクターの実 践 ・機械整備事業実施
	塩谷町	ふぁまず IMO	稲わら収集46.9ha	稲わら収集50ha以上を目指す。	稲わら収集55 ha	悪天候により、収量が低 かった。作業時間の効率 化を図ることが課題。	作付面積の拡大を図ると ともに、単収の確保、利 用農家の拡大を図る。	稲わら収集50ha以 上を目指す。

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
栃木県	那須烏 山市、那 珂川町	那須烏 山市、那 珂川町	水田・里山放牧2カ 所(0.7ha)	水田・里山放牧6カ所	水田・里山放牧11カ所 (7.3 ha)	・放牧により遊休地の利 活用を進める事ができ た。	関係機関と連携して放牧 可能な遊休地を確保し 利活用を進めていく。	水田・里山放牧6カ 所	
	那須町	那須町 共同利 用模範 牧場	ベコまつり来場者 3,000人	那須高原ベコまつりで那須和牛による バーベキュー実施、牛乳の無償配布、 なす和牛無料試食等実施し、参加人 数の増加を図り、消費者の畜産物等 の理解醸成を図る。	ベコまつり来場者 人 3,000人 乳用牛298頭、肉用牛 74頭(新規)	畜産農家等関係者の参 加が少ないため、参加協 力が課題。	全体計画の見直しを進 め、効率の良い開催を検 討していく。	那須高原ベコまつり で那須和牛による バーベキュー実施、 牛乳の無償配布、な す和牛無料試食等 実施し、参加人数の 増加を図り、消費者 の畜産物等の理解 醸成を図る。	那須高 原ベコま つりは平 成9年度 から毎 年実施。
	日光市	栃木県 酪農業 協同組 合 大笹 牧場	預託放牧牛 282頭 酪農体験者数 年度途中 来場者数 年度途中	預託放牧牛 300頭 酪農体験者数 8,000名 来場者数 80万人	預託放牧牛 287頭	預託放牧牛については 酪農家と育成牛飼養頭 数の減少により、計画に 及ばなかった。 来場者数については年 度途中で確定しないが、 道路事情が良くなり上昇 傾向と推測する。	放牧牛の成績向上と頭 数の確保に努める。 牧場体験の実施、広告 宣伝等により、来場者の 増加を図る。	預託放牧牛 300頭 酪農体験者数 8,000名 来場者数 80万人	
	鹿沼市	移動放 牧推進 委員会、 鹿沼市 和牛生 産部、鹿	新規のため、H18 はなし。	遊休農地試験放牧新規実施地区を2 カ所	遊休農地試験放牧新規 実施地区を2カ所	遊休農地解消のために 自治会全体で取り組むこ とが出来た。次年度への 期待が高まった。	地域ぐるみでの取組を継 続。地域住民、畜産農家 両者に利のある方策とし て位置づけを図る。	遊休農地試験放牧 新規実施地区を3カ 所予定。	
	群馬県	前橋市	(財)群 馬県農 業公社	・飼料作物収穫調製 作業受託の実施 受託面積 86ha(前 年比約150%) ・収穫作業実演会 の開催、コントラクター の普及推進(4回)	・飼料作物の収穫調製 作業の受託拡大	・飼料作物の収穫調製 作業の受託実施 受託面積 110ha(前 年比約128%)	・収穫調製作業の受託拡 大。 ・作業拡大に対応できる 受託能力の強化が課題	・新規のコントラクター組 織の設立に向けた協業 体制づくり	・収穫調製作業受託 目標 125ha ・新規のコントラク ター組織の設立と育 成

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評価・課題			今後の対応
群馬県	下仁田 町	(財)神 津牧場	<ul style="list-style-type: none"> 春と秋の牧場まつり、放牧体験等を実施し1000～2000名の参加があった。 宿泊型の牧場体験を県内親子を対象に2回開催し、67名の参加があった。 バター作り体験、搾乳体験等に小学生から高校生、一般の方等1000名以上が参加した。 森林関係の助成により山の実園を開設し、自然の実から加工品の試作を試みた。 採草地20ha、放牧地36haにおいて簡易草地更新を実施し、牧草960tを生産、190頭の放牧を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各取組においてアンケートを実施し内容の充実を図る。 自然と調和した畜産のイメージを定着させる。 新商品の開発 採草地20ha、放牧地44haにおいて簡易草地更新を実施し、牧草960t、210頭の放牧。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧場体験に新メニューとして牛舎清掃や子牛のほ乳体験を加えた。 山の実と乳製品を組み合わせた森と牛の共生を示す加工品の試作。 ジャージー牛肉を用いたレトルトカレー等の新商品を開発 採草地20ha、放牧地44haにおいて簡易草地更新を実施し、牧草960t、210頭の放牧。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧場まつりを始め、一般の来場者は、放牧牛の行進や子牛との触れ合いにより畜産への理解が進んだ。またバター作り体験では、食育として貢献した。 県単事業を利用して、土壌分析により草地の簡易更新を実施し、飼料増産を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 家畜とのふれあいを意識したメニューをさらに検討し、畜産理解醸成をすすめる。 県単事業を利用して、土壌分析結果から草地の簡易更新を実施し、飼料増産を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧場体験メニューの作成。 自然と調和した畜産イメージの定着 ジャージー牛肉の新用途開発。 	
埼玉県	秩父市	蒔田地区自給飼料生産組合	平成18年度収穫面積 トウモロコシ 7.5ha エン麦2ha	平成19年度収穫面積 トウモロコシ 9ha エン麦 1ha	平成19年度収穫面積 トウモロコシ 8ha エン麦 0ha	台風の被害でトウモロコシが倒れてしまい、収穫量が減少した。	刈り取りが遅かったため、20年度は早めに刈り取る。	平成19年度収穫面積 トウモロコシ 9ha エン麦をソルゴー等に変える予定(検討中)	
	美里町	・美里町飼料用イネ協議会 ・美里町飼料稲利用会 ・(有)みのり	コントラクター((有)みのり)を活用した 耕畜連携による稲発酵粗飼料用稲の生産・利用 作付面積 24ha	コントラクター((有)みのり)を活用した 耕畜連携による稲発酵粗飼料用稲の生産・利用 作付面積 22.2ha(前年比92.5%)	作付面積 22.2ha (H18年比92.5%)	収穫効率の見直しを行い、一定の成果を得た。	品種構成、作付け水田の集積をさらに検討する。	作付け面積の拡大 30ha	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
埼玉県	熊谷市 (旧妻沼 町善ヶ 島、古江 原、江 波)及び 近隣市 町	善ヶ島地 区水田 営農組 合、古江 原地区 転作協 議会、妻 沼町酪 農振興 会	・稲発酵粗飼料用稲 作付面積:20.5ha ・「はまさり」で、乾物 収量は最大1,059kg /10a。平均1,024kg /10aであった。 ・鉄コーティングは種を 2ha善ヶ島で実施し た。 ・流通先の変更を検 討した結果、効率的 作業が出来た。	・稲発酵粗飼料用稲作付面積:23ha (対前年比112.2%)。 ・有機センターの液肥等を活用し「は まさり」で、乾物収量1,100kg/10aを 目指す。 ・鉄コーティングは種を善ヶ島で2.5ha実施 (対前年比125%)	・稲発酵粗飼料用稲作 付面積:24.0ha(対前年 比117.1%) ・「はまさり」の乾物収量 は最大1,357kg/10a、平 均1,022kg/10a(移植平 均1,087kg/10a、直播平 均926kg/10a)であった。 ・鉄コーティングは種を善ヶ 島で2.8ha(112%)実施 ・カルバコーティングは種を 古江原で4.6ha実施。	・善ヶ島、古江原地区で 作付面積が拡大した。 ・直播栽培で収量が低く なった。特に鉄コーティ ングは種では苗立が悪く低収 量となった。直播栽培で の収量向上が課題。	・来年度の作付につい て、関係機関等で協議を 行う。 ・取引価格の変更を協議 する。	・引き続き、有機セン ターを活用した堆肥 利用を推進し、ま た、家畜ふん尿由来 の液肥等を活用す ることで生産性の向 上を図る。 ・鉄コーティングは種を 継続実施し、収量向 上に向けた検討を 行う。
	狭山市	狭山粗 飼料生 産組合	トウモロコシの細断 型ロールペーラーに よる自給飼料の生 産 実績:10.6ha	同左 作付面積: 13.2ha	同左 作付面積:12ha	飼料価格高騰の厳しい環 境をふまえ、更なる効率 化が必要	作付拡大を検討する	作付面積:13ha
	秩父高 原牧場	埼玉県	・来場者数361千人 ・牧場管理道沿いの スイセンの管理 ・3haのポピー畑を整 備 ・桜の管理	・来場者数40万人 ・牧場管理道沿いのスイ センの管理 ・3.5haのポピー畑の管 理 ・桜の管理	・来場者数41万人 ・牧場管理道沿いのスイ センの管理 ・3.5haのポピー畑の管 理 ・桜の管理	・来場者数が目標を上回 るなど目標を達成した。	・花にあふれる牧場づく りを地元市町村と連携し ながら引き続き推進す る。	・来場者数42万人 ・牧場管理道沿いの スイセンの管理 ・3.5haのポピー畑の 管理 ・桜の管理
千葉県	市原市	市原市 肉牛生 産組合	遊休農地1.6haで 繁殖和牛5頭を放牧	放牧面積の拡大 周辺の遊休地での面積拡大を検討し ていく。	遊休農地1.6haで繁殖 和牛5頭を放牧	本組合では放牧面積の 拡大は困難であった。	風牧地の環境を悪化さ せないために、5頭の放 牧に留める。	遊休農地1.6haで 繁殖和牛5頭を放牧
	市原市	市原市 野草利 用研究 会	稲わら収集面積:0h a	稲わら収集の実施 暗渠排水整備地区での収集を予定し ており、毎年10haづつ拡大していく予 定。	稲わら:30ha 麦わら:50ha	収集については計画を上 回って行えたものの、た い肥散布作業に限界が あった。	売り上げの一部を利用し て、たい肥散布機の購 入を検討する。	麦わら収集面積を6 0ha(前年比11 2%)に拡大する。
	成田市 (旧下総 町)	下総町 飼料生 産組合	稲WCS 5ha えん麦 0ha 牧草 23ha トウモロコシ 6ha	牧草栽培の拡大 土地条件の良い牧草栽培を拡大し飼 料の確保を図る。	稲WCS 8.44ha えん麦 0ha 牧草 22.75ha トウモロコシ 6ha	稲WCSは面積拡大を 行ったが、裏作のえん麦 栽培は水田条件や作業 性(排水が悪く、播種時 期が遅い)を考慮して作 付けを見送った。	特になし	19年度並の栽培面 積の確保と牧草収 穫回数の増加(19 年度は3回)

都道府県名	市町村名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
千葉県	香取市	千葉県三和酪農農業協同組合	トウモロコシ及び一部トウモロコシ・ソルゴー混播 84.2ha	作付け面積の拡大それぞれの計画に応じた作付け面積拡大を指導していく。	トウモロコシ及び一部トウモロコシ・ソルゴー混播:100.5ha	さらに面積拡大を推進していくが、農地の確保が思うようにできない。	農地の拡大を推進するため水田での作付けにも積極的に取り組んでいく。	既に取り組んでいるトウモロコシラップサイレージ体系に加え、稲発酵粗飼料の収穫・利用に取り組	
	旭市(旧干潟町)	農事組合法人八万石	稲WCS 34.1ha 稲わら収集 34.5ha 麦わら収集 0ha	稲発酵粗飼料の面積拡大行政と連携し、稲発酵粗飼料の取組に関する周知を徹底し、新規の作付農家を募る。	稲WCS 36.2ha 稲わら収集 31ha 麦わら収集 0ha	天候不順及び稲作農家の食用米作付け意欲が強いことから目標を達成できなかったが、WCSは増加傾向にある。	稲発酵粗飼料の面積拡大を図るため、2月に転作への取組説明会を実施。また、希望者には戸別訪問による説明会も計画。	転作制度の転換を期に、行政と連携し稲発酵粗飼料のさらなる取組増加を目指す。	
	袖ヶ浦市	袖ヶ浦市稲わら生産組合	稲WCS 2.3ha 稲わら収集 40ha	稲わら収集の拡大効率的な稲わら収集のため。収集水田の集約に努める。	稲WCS 1.1ha 稲わら収集 35ha	収集面積の拡大に努めたが、早場米の産地であるため台風の影響により稲わら収集面積は拡大できなかった。稲WCSについては作付け農家の減により減少した。	米生産調整の重点作物として稲WCSの面積拡大を推進する。稲わら収集水田の集約に努める。	稲WCS 2.3ha 稲わら収集 50ha	
東京都	青梅市	酪農及び肉用牛生産農家						都単独事業で、細断型ロールペーラー、ラッピングマシン等の導入(共同利用)	
神奈川県	相模原市	肉用繁殖雌牛導入による地域農業活性化事業推進協議会	黒毛和種繁殖雌牛11頭を180aに放牧した。	黒毛和種繁殖雌牛11頭を継続して放牧する。	黒毛和種繁殖雌牛11頭を159aに放牧した。借地の一部を返還したため放牧面積が減少した。	放牧により野草の刈り取り及び、イノシシ等の獣害対策としての効果が得られた。土地の散在化や管理者の高齢化等により拡大が困難。		黒毛和種繁殖雌牛11頭を継続して放牧する。	
	伊勢原市	ブルーファイブ	営農集団における飼料作物作付け面積を16haに拡大(前年比123%)	トウモロコシを16ha作付けする。	トウモロコシを16ha作付けした。	計画面積どおり収トウモロコシを作付けした。単位面積当たりの収量の向上を図る。	平成20年の作付等について検討する。	トウモロコシを16ha作付けする。	
山梨県	中央市(旧田富町)	農家集団(耕種農家及び畜産農家)	稲発酵粗飼料面積1.34ha	稲発酵粗飼料面積1.34ha	稲発酵粗飼料面積1.34ha	作付面積は横ばいがつづいているので、耕畜連携水田活用対策についての耕種農家への周知が必要。	関係機関と連携して、拡大もしくは維持の方向で打ち合わせを行う。	稲発酵粗飼料の作付面積は平成19年度と同様を計画している。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
山梨県	北杜市 (旧長坂町)	長坂 ファーム 組合	稲発酵粗飼料作付 面積の増加10.78 ha	稲発酵粗飼料の面積10.8ha	稲発酵粗飼料の面積 3.4ha	北杜市は食用米取引価 格が高く、稲WCS以外の 転作作物の需要も高い 地域であること、収穫調 製機械が扱いにくい狭小 な圃場が多いことなどを 理由に、作付面積が減 少。	今後、8haを目標に増産 を考えている。	稲発酵粗飼料の作 付面積は平成19年 度より拡大を計画し ている。
	北杜市 (旧高根町)	清里地 区飼料 生産組 合	飼料用トウモロコシ 作付面積10.1ha	飼料用トウモロコシ作付面積11.3ha	飼料用トウモロコシ作付 面積11.3ha	飼料価格の高騰により、 自給飼料の作付意欲が 高まっている。	今後もモデル地区とし て、実証と併せて現地研 修を行うなどして、県内 へ普及を図る。	飼料用トウモロコシ 作付面積は平成19 年度より拡大を計画 している。
	富士河 口湖町 (富士ヶ 嶺地区)	山梨型 放牧研 究会	草地面積の拡大 12.5ha 16.8ha	草地面積16.8ha	草地面積16.8ha	事業目的を達成してい る。	今後も遊休化されている 草地などの活用を検討し ていく。	遊休化されている草 地を借りて17ha作 付を検討中。
	北杜市 (大泉町 地区)	山梨県 立まきば 公園	年間入園者21万人	年間入園者21万人	年間入園者23万人	まきば公園主催の各種イ ベントを通じ、消費者に 対し畜産に対する理解を 得られた。	今後も、畜産販売やイベ ントを通じて消費者への 理解の醸成を図ってい く。	平成19年度もイベ ント等を活用しなが ら、消費者への理解 の醸成を図ってい く。
長野県	伊那市 (ますみ ヶ丘)	ますみヶ 丘フォ ルト組 合	ベールグリッパーの ロールをつかむ部分 に、布などを巻くなど 調整し対応した。	牧草を減らしトウモロコシの作付け面 積を1~2割程度増やす(労力的に作 付け面積を単純に増やすことは不可 能)。また、刈り取り時期が牧草と重 ならないよう、トウモロコシの播種時期を ずらせ、刈り取りを遅くする。(細断型 ロールペーラの協同作業を一番最後 に行う)	自給飼料(飼料用トウモ ロコシ)の作付 3.4ha (18年比 100%) 堆肥散布 1.5ha (18年比 44%)	前年度に導入したベール グリッパーの調整がうまく いき、作業効率が向上 し、作付拡大に向けた手 応えが得られた。	飼料高騰に対応した自 給飼料作付面積の拡大	自給飼料(飼料用ト ウモロコシ)の作付 4.0ha (19年比 117%) 堆肥散布 1.5ha (19年比 100%)
	松本市 (梓川地 区)	倭酪農 機械利 用組合	自給飼料(飼料用ト ウモロコシ)の作付 31.0ha (17年比106%)	自給飼料(飼料用トウモロコシ)の作 付 31.8ha (18年比103%)	自給飼料(飼料用トウモ ロコシ)の作付32.5ha (18年比105%)	作付け面積は計画を上 回り増加し単収も増加し た。	20年度の目標数値に向 けた計画策定のため、3 月に総会を開催予定。	自給飼料(飼料用ト ウモロコシ)作付33 ha (H19比102%)

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備考
				計 画	実 績	評 価・課 題	今 後 の 対 応		
長野県	東御市 (東御市 和地区)	エボシ山 麓酪農 組合	牧草16.3ha	牧草18ha	牧草延べ30ha (実面積10ha)	天候による生育不良が 見られた。 農地が集約されておらず 作業効率が悪い。	市農政担当者と連携し、 遊休農地等を借り生産 拡大を図る。 新たにトウモロコシの取 組も検討。	牧草延べ30ha	
	塩尻市 (片丘地 区)	片丘酪 農団地 組合	自給飼料(牧草)の作 付け 13ha (17年比113%)	自給飼料(牧草)の作付け 13.7ha (17年比119%)	自給飼料(牧草)の作付 け13ha (18年比100%)	飼料収穫調整作業 時間の短縮 乾草の品質向上	飼料作付け面積拡大の ための調整活動を行う。	自給飼料(牧草)の 作付け13.7ha (19年比105%)	
静岡県	袋井市 森町	JA遠州 中央稲 わら供給 組合	稲わら収集面積 91ha WCS収穫面積 55ha	稲わら収集面積 110ha WCS収穫面積 67.9ha	稲わら収集面積 110ha WCS収穫面積 48.3ha	稲わら収集面積は順調に 拡大している。 WCSは転作ブロックローション の関係から面積が減少し た。	引き続き取組面積の拡大 を推進する。 WCSは、取組地域の拡大 を図る。	稲わら収集面積 120ha WCS収穫面積 99.2ha	
	御前崎 市	御前崎 市放牧 研究会	放牧面積 3.2ha 放牧頭数 18頭	放牧面積 10ha 放牧頭数 36頭	放牧面積 10.9ha 放牧頭数 49頭	順調に取組みが拡大して いる。	御前崎市内での放牧、レンタルカ の継続、推進 近隣の放牧未実施地域での実証 展示の実施 放牧跡地の利用方法についての 検討	引き続き取り組み面 積の拡大を推進す る。	
	浜松市 湖西市 掛川市 菊川市	浜名酪 農業協 同組合	事業主体による先進 事例調査、情報収集 等を実施	飼料生産コントラクター組織とTMRセンターの設置 に向けた施設の設置箇所・事業規模・事 業計画の検討・作成を実施	施設設置箇所決定 事業規模決定 事業計画作成		引き続き20年度施設・機 械整備のための準備を 進める	飼料生産用機械の 導入、コントラクター の活動開始 TMRセンターの設置	
新潟県	胎内市	(有)アグリ 黒川 (黒川地 区大豆 生産組 合)	稲発酵粗飼料 4.85ha 稲わら収集 20.0ha	耕畜連携の拡大による取組面積の拡大誘導	稲発酵粗飼料 3.7ha 稲わら収集 25.0ha	利用側の意向を踏まえた 取組が着実に増加	肉用牛農家に対する利 用拡大の促進 カロテン含量を踏まえ た給与方法の検討	法人としての収益確 保に向けた取組拡大 等の支援 稲発酵粗飼料 5.0h a 稲わら収集 25.0ha	
	新潟市 (旧岩室 村)	(有)米工 房いわむ る	稲発酵粗飼料 17.8ha 稲わら収集 20.0ha	新規のとうもろこし生産への本格的な 取組支援	とうもろこし 5.5ha 稲発酵粗飼料 14.0ha 稲わら収集 25.0ha	県単事業によるとうもろこ し収穫機械整備支援等 により、本格的な取組が 開始	安定的なとうもろこし生 産への支援 更なる生産拡大への支 援	安定生産のための 技術的支援 法人経営の安定化 を図るための経営支 援 とうもろこし 6.5ha 稲発酵粗飼料 15.0 ha 稲わら収集 26.0ha	
	長岡市	(有)成沢 アグリ サービス		耕種組織の事業の一環としての飼料 用稲わら収集の新規開始	補助事業を活用した収 集体整備 稲わら収集 7.0ha	県単事業による稲わら収 集機械整備支援や組織 育成活動等により、新規 の取組が開始	稲わらと堆肥による地域 資源循環型農業の確立 支援	法人経営の安定化 や効率的な収集作 業に向けた支援 稲わら収集 10.0ha	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
富山県	氷見市	耕種農 家 他	地元農協による放牧 の取組が開始され た。 市内放牧面積3.8ha	市内放牧面積4.5ha(18年比118%)	市内放牧面積7.2ha(18 年比160%)	耕種農家による放牧が 定着しつつある。同 じ耕作放棄地での放牧に より、草量の減少が見ら れる。	放牧地での草量の確 保。 新規放牧実施者の掘り 起こし	市内放牧面積8.2ha (19年比114%)	
	立山町	立山放 牧組合	富山市内でも別の 実施者が新たに放 牧開始 町内放牧面積 14.0ha	町内放牧面積15.0ha(18年比107%) 富山市内放牧面積2.5ha(18年比 100%)	町内放牧面積15.3ha (18年比109%) 富山市内放牧面積 2.5ha(18年比100%)	放牧の要望はあるが、巡 回等の労力が限界に近く 面積拡大は困難。	放牧地の選定支援 新規放牧実施者の掘り 起こし	町内放牧面積 15.0ha(19年比 98%) 富山市内放牧面積 4.6ha(19年比 184%)	
	黒部市	魚津稲 わら収集 組合	畜産ふれあい体験 交流会3回、 体験交流情報提供7 回	消費者への理解の醸成	畜産ふれあい体験交流 会3回、 体験交流情報提供12回	県内畜産物生産に対し 理解が醸成された。	次年度計画作成支援	消費者への理解の 醸成	
	魚津市	魚津稲 わら収集 組合	稲わら収集面積 9.1ha	稲わら収集面積12ha	稲わら収集面積12ha	稲わらの受け渡し方法な ど、流通の一定的な考え 方が解決された。 燃料価格の高騰から、販 売価格等検討する必要 がある。	次年度計画作成支援	稲わら収集面積 12ha	
	富山市 (婦中 町)	水と緑ふ ちゅう		稲発酵粗飼料作付け面積 11ha	稲発酵粗飼料作付け面 積 11.1ha	WCS生産組織が設立さ れた。	次年度計画作成支援	稲発酵粗飼料作付 け面積 15ha	
石川県	珠洲市	珠洲市 農業協 同組合	草地更新10ha	5ha	6ha	地域の草地面積の割に 更新面積が少ない	簡易更新機械を活用し た草地更新の推進	草地更新8ha	
	白山市	松任市 農協等	稲発酵粗飼料1.2ha 団地化 5ha、資源循環13h a	稲発酵粗飼料1.2ha、飼料作物団地 化6ha資源循環10ha	稲発酵粗飼料1.3ha、 飼料作物団地化7ha資 源循環8ha	耕畜連携の推進が図ら れている。	飼料米を含めて、地区で の拡大する体制を整備 する。	稲発酵飼料2ha、団 地化8ha、資源循環 10ha	

都道府県名	市町村名	実施者	18年度(実績)		19年度			20年度(計画)	備考
			計画	実績	評価・課題	今後の対応			
石川県	白山市	地区内の和牛一貫農家	稲わら収集2ha及び和牛放牧2頭	稲わら収集3ha及び和牛放牧6頭	稲わら収集4ha及び和牛放牧6頭	繁殖・肥育一貫経営で、積極的な経営である。	さらに和牛放牧の拡大をめざしている。	稲わら収集5ha、和牛放牧8頭	
	中能登町	黒氏粗飼料生産組合		飼料作物団地化18ha、稲わら収集4ha	飼料作物団地化18ha、稲わら収集5ha	地域での中核として飼料自給率の向上を図っている。	さらなる耕畜連携のむ推進により取組面積の拡大に努める。	団地化18ha、稲わら収集6ha	
福井県	坂井市	肉用牛農	稲わら回収 314ha	稲わら回収 314ha	稲わら回収 574ha	地域の稲わら自給が出来た。	稲わら収集面積を維持・拡大する。	稲わら回収 314ha	
	福井市	(有)藤島工	稲WCS作付け 3.0ha	稲WCS作付け 15.0ha	稲WCS作付け 19.0ha	作付け面積が大きく増加した。	作付け面積の拡大品質の向上	稲WCS作付け 20.0ha	
	越前町	かしずみ	稲WCS作付け 1.0ha	稲WCS作付け 5.0ha	稲WCS作付け 6.5ha	作付け面積が大きく増加した。	作付け面積の拡大品質の向上	稲WCS作付け 7.0ha	
	福井市	西別所放牧組合		水田放牧 1.0ha	水田放牧 1.0ha		放牧面積の拡大	水田放牧 1.5ha	
岐阜県	郡上市八幡町	貢間牧草地管理組合	放牧面積1.6ha、放牧頭数6頭、放牧期間6/6～10/31(147日)。	効率的な放牧を行うため、放牧頭数や、放牧期間を見極めて実施する計画(1.6ha、6頭)。また、県内先進優良事例として、各地域の取り組みのモデルとして普及啓蒙に活用する予定。	放牧面積1.6ha、放牧頭数4頭、放牧期間6/5～10/5(5ヶ月)。	放牧に適した頭数を確保できず放牧圧が弱まったため、秋口からチカラシバ、ススキが繁茂し植生が悪化。	春の入牧前に掃除刈りを行い、また放牧頭数を維持し、放牧地として適した植生回復を図る。	放牧地の牧養力を最大限に生かせるよう放牧時期を見極める。また現取組面積を維持。	
	中津川市	坂下町牛組合	約5ha(前年比107%)を収集。	継続して堆肥との交換による稲わら収集の取り組みを実施(約5ha)。作業受託組織の活用等による作業負担軽減等による高齢化対策を行い、現状の取組面積を維持を維持していく予定。	稲わら収集を昨年度を上回る5.08haで実施	優良な稲わら収集ほ場の集積が進まない。	高齢による労働力の低下の防止、及び収穫時期の天候による品質劣化への対応	現状の取組面積を維持を維持していく予定。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題	今後の対応		
岐阜県	高山市	西洞牧 草地管 理組合	強い農業づくり交付 金事業により放牧地 整備を実施。 ・草地造成工1ha ・隔障物整備 1,500m	5月頃から放牧開始予定(放牧面積 5ha)。同時に、取り組みの周知・啓蒙を行 う。地域繁殖雌牛から生産される子牛20 頭の放牧を予定。	8月に放牧を開始(2頭)。 高温、雨不足等による牧 草の生育不良から予定よ り早く放牧を終了した。	次年度は計画的に放牧 を実施する予定。	草地の状況を見ながら 計画的な放牧を実施す る。また、草地の状況に 応じて適正な肥培管理を 行う。	放牧地の牧養力を 最大限に生かせるよ う放牧時期を見極め る。また、現取組面積 を維持。	
	富加町・ 坂祝町・ 美濃加 茂市・八 百津町	富加酪 農組合	稲わら23.2ha(86.2t) を収集し、肉用牛肥育 農家へ供給。	収集面積の拡大のため、(目標24.2ha 89.5t)収穫機械の導入等により、作業効率 の向上を推進。また、給与農家の意向な どを取り入れ、ニーズに応えた収集体制 の構築を推進。					
愛知県	田原市	田原飼 料生産 組合等	収集面積82ha	稲わら収集面積110ha	不明	高品質な稲わらを収集す るために耕種農家と連携 した取組が実施されてい る。	高品質な稲わらを収集 するための方策を関係 機関と連携しながら探 る。	稲わら収集面積 110ha	
	新城市	愛知東 飼料生 産コン トラク ター	飼料作物生産の受 託(35ha)。	飼料作物生産40ha	飼料作物生産40ha	ロールベアラ・ラッピング マシンが導入され、収集 面積拡大ができるよう になった。	稲WCS作付面積拡大を 図るための方策を地域 協議会と連携しながら進 めていく。	飼料作物生産45ha	
		愛知東 農業協 同組合	放牧面積4.9ha	放牧面積6ha	放牧面積4ha	遊休農地で放牧を行い 放牧跡地で飼料作物の 作付が始まり、面積が少 なくなった。	山間部では、小さな農地 が多く、放牧機関が十分 にとれない。このため、 山林を含めた放牧を展 開していく。	放牧面積6ha	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
愛知県	豊田市	加茂和 牛改良 組合	放牧面積2.2ha	放牧面積3ha	放牧面積1.3ha	遊休農地で放牧を行い 放牧跡地で飼料作物の 作付が始まり、面積が少 なくなった。	放牧を実施する農家が 固定されており、農協が 中心となり研修会を開催 しても実施する農家がで てこない。このため、根 気強く推進に努める。	放牧面積3ha
	西尾市・ 幸田町	小笠原 牧場・都 築牧場	作付面積1.1ha	作付面積2ha	作付面積2ha	バイオエタノール用稲を 活用した稲WCSの取組 が始まった。 (面積:30a)	飼料とバイオの連携を図 りながら推進していくこ となる。	作付面積4ha
三重県	大紀町 (旧大宮 町)	JA伊勢 大宮支 店	現在わら収集は営 農集団を中心に収 集されているが、肉 牛農家の需要は高 く、さらなる収集面積 の拡大のため、他の 集団への働きかけを 実施。 わら収集面積 24 ha	・収集面積拡大に伴う貯蔵場所の確 保 ・地域外からの確保方法の検討 ・耕畜連携推進 ・わら収集面積目標 45ha	わら収集面積 16ha (確保量 40t)。	天候不順により目標面 積は達成できなかった が、稲わらに対する需要 は高く、不足時に対する 対処方法を検討する必 要がある。	引き続き他の営農集団 への働きかけを実施。	・収集面積拡大に伴 う貯蔵場所の確保 ・地域外からの確保 方法の検討 ・耕畜連携推進 ・わら専用稲の取組 検討
	伊賀市	JA伊賀 北部	農協がわら収集に かかる機械整備を 行い、わら収集・流 通体制について検 討・推進。 わら収集面積 36.2ha	・天候不順に対応した確保対策の検 討 ・堆肥活用による耕種農家との連携強 化 ・わら収集面積目標 50ha	わら収集面積 39ha (確保量 62t)。	天候不順により目標面 積は達成できず、収集方 法等について再検討必 要。	稲の作付体系の見直 し、収集方法等について 再検討。	・天候不順に対応し た確保対策の検討 ・堆肥活用による耕 種農家との連携強 化

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題 今後の対応		
滋賀県	日野町	(有)日野 アグリサー ビス	受託組織による稲 WCSの収穫調製作 業の実施面積 26.6ha(前年度の 12%増)	受託組織による稲WCSの収穫調製作 業の計画面積29ha	受託組織による稲WCS の収穫調製作業40ha (前年度の50.4%増)	計画面積を達成できた 今後は作業の効率化、 稲WCSの品質の向上を 図る	受託組織による稲 WCSの収穫調製作 業38.5ha	
	甲賀市	JA甲賀 郡稲わら 生産供 給組合	組合による稲わら集 積作業の実施面積 21.0ha(前年度と同 様)	組合による稲わら集積作業の計画面積 20ha以上	組合による稲わらによる収穫 調整作業の実施面積 25ha(前年度の19%増)	作業実施面積は30haで あったが、天候不良等 により5ha分について集積 できなかった 稲わらの品質の向上を 図る	組合による稲わら集 積作業の計画面積 30ha以上	
	竜王町	山中生 産組合		組合による収穫調製作業の計画面積 14ha	耕畜連携水田活用対策 事業の活用により稲 WCS専用機を導入 組合による稲WCSの収 穫調製作業の実施面積 13.3ha	ほぼ計画どおりの取組で あった 今後は作業の効率化、 稲WCSの品質の向上を 図る	組合による稲WCS の収穫調製作業の 計画面積13.9ha	
	米原市	伊吹農 業生産 組合		組合による稲わら集積作業の計画面積 8ha	事業採択されなかった ため未実施		次年度強い農業づくり交 付金の活用により稲わら 収集機等の導入を図る	組合による稲わら集 積作業の計画面積 8ha

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考	
				計画	実績	評価・課題			今後の対応
京都府	中丹地区	京都丹の国農協	稲発酵粗飼料作付面積 1.42ha	給与農家の利用促進とともに、酪農家も対象とした給与実証に基づく研修会を開催し、作付推進を行う。新耕畜連携対策等の刈刈を附加するなど、誘導策を検討。	稲発酵粗飼料作付面積 1.01ha	栽培農家7戸と肉用牛農家4戸(繁殖3、肥育1)の協定に基づく取組として定着したが、今後、面積拡大と酪農への需要拡大が課題。	面積拡大、取組推進等のため、第2回飼料増産行動会議を3月に開催。	稲発酵粗飼料作付面積 1.01ha	
	丹後地区	畜産農家集落等	放牧面積 6地区14.3ha 放牧頭数 肉用牛46頭 乳用牛20頭	いとかりの活用など、集落における放牧実証展示事例を増やし、農家放牧、集落放牧への発展・定着を図る。	放牧面積 8地区19.6ha 放牧頭数 肉用牛50頭 乳用牛20頭	遊休農地の利用、獣害防止など放牧の効果を集落に広げるとともに、畜産経営の改善に結びついた。	面積拡大、取組推進等のため、第2回飼料増産行動会議を3月に開催。	放牧面積 10地区25ha 放牧頭数 肉用牛60頭 乳用牛30頭	
兵庫県	淡路地域	兵庫県及び畜産農家	放牧面積 20.9ha 放牧頭数 174頭	放牧面積 30ha 放牧頭数 200頭	放牧面積 34.9ha 放牧頭数 257頭	獣害防止を目的にした実証展示を実施し、成果がみられた。遊休農地の権利調整が必要。	遊休農地の権利調整を進める。畜産農家の放牧に対する不安の解消。	補助事業等を活用し、新たな放牧を開始させる。	
	南あわじ市	あわじ島農協及び営農集団	組織的な稲わら収集面積 130ト	組織的な稲わら収集面積 150ト	組織的な稲わら収集面積 199ト	機械の導入により効率的に収集ができた。	さらに収集組織や収集面積を増やすように働きかける。	補助事業による機械の導入等を進め、さらに面積の拡大を進める。約100tの増加を図る。	
	北但馬地域	畜産農家集団及び耕種農家集団	組織的な稲わら収集量 43ト	組織的な稲わら収集量 68ト	組織的な稲わら収集量 78ト	耕種農家グループと畜産農家の結びつきによる収集ができた。	さらに収集面積を増やすよう調整を図る。	19年度の実績を踏まえ、さらに効率的にわら収集を進め、さらに増加を図る。	
	たつの市	株式会社ささ営農組合	組織的な稲わら収集面積 0ha	組織的な稲わら収集面積 10ha	組織的な稲わら収集面積 0ha	当初計画があったが、採算などの問題から収集は中止になった。			
	小野市	小野市、東播酪農協同組合及び営農集団	飼料作物作付面積 163ha	組織的な稲わら収集面積 168ha	飼料作物作付面積 163ha	市町別統計資料が講評されていないため、正確な面積がわからない。			

都道府県名	市町村名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題		
兵庫県	赤穂市	赤穂市及び営農集団	飼料作物作付面積43ha	飼料作物作付面積51ha	飼料作物作付面積43ha	市町別統計資料が講評されていないため、正確な面積がわからない。		
	姫路市	営農集団	飼料作物作付面積0ha	飼料作物作付面積5ha	飼料作物作付面積5ha	採算性が厳しい。	新たな作付地の確保	稲WCSの収量向上などを進める。
鳥取県	鳥取市(旧鳥取市、旧国府町)、岩美町、八頭町(旧郡家町、旧船岡町)、智頭町	鳥取県畜産農業協同組合(東部コンタクト組合)	・飼料用稲収穫86.5ha ・総ロール数7,533(8.7ロール/10a) ・利用農家29戸	・コーンサイレージの新規取組の開始(10ha) ・飼料用稲の作付拡大(トータル95ha)	・コーンサイレージの新規取組(6ha) ・飼料用稲の作付拡大(トータル93ha)	・コーン作付圃場の排水不良により、生育量が確保できず、4haは収穫に至らなかった。 ・飼料用稲は、新たに収穫機が導入できたこともあり、ほぼ計画どおりの作付拡大につながった。	・次年度作付に向けた圃場利用計画の検討	・コーンサイレージの取組継続(5ha) ・基本技術の徹底による県平均コーン反収の確保(4,500kg/10a)
	鳥取市(旧気高町、旧鹿野町)	山東飼料生産組合	・飼料用稲収穫12.8ha ・総ロール数1,222(9.6ロール/10a)	・飼料用稲作付面積と利用の拡大によるロール単価の減額(現在3,800円 目標3,000円)	・飼料用稲収穫12.7ha ・総ロール数1158(9.2ロール/10a) ・ロール単価3,000円	・飼料用稲作付面積は前年並みで、品質も安定している。 ・高栄養の自給飼料確保に向け、コーン作付にも対応できる体制作りを行った(バンカーサイロ整備等)。	・次年度作付に向けた圃場利用計画の検討	・コーンサイレージの新規取組(5ha)
	伯耆町(旧溝口町)	日光粗飼料生産組合	・作付面積16.4ha	・組織体制の見直しによる適期作業の徹底化	・作付面積16ha ・適期作業の実施については、改善が図られた。	・面積拡大に向けて課題となっていた適期作業の実施についての改善が図られた。 ・今後は、地域の荒廃農地を活用し、草地として利用する計画が組合内で検討されている。	・次年度作付に向けた圃場利用計画の検討	・作付面積の拡大(16ha 18ha)
島根県	益田市	J A西いわみ	WCS調製面積10ha、稲わら収集面積11ha	WCS調製面積10ha以上、稲わら収集面積20ha	WCS調製面積16.3ha以上、稲わら収集面積19.7ha	取組の波及効果が有り、取組面積、農家数は増加している。	生産調整が一層強化されることから、有力な転作作物として推進を図る。	WCS調製面積19.5ha、稲わら収集面積22ha

都道府県名	市町村名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題		
島根県	海士町、西ノ島町、知夫村	海士町、西ノ島町、知夫村	公共牧場の造成・整備面積42.0ha、家畜飼養頭数は1,489頭(2/1調査)。	草地林地事業実施計画策定と繁殖雌牛の増頭(1,500頭)。	事業計画策定見込み。飼養頭数は精査中。	農外・新規参入者等で積極的な増頭が図られている。	引き続き県プロジェクト等により、関係機関一体となった支援を行う。	草地林地事業実施と繁殖雌牛の増頭(1,500頭)。
	大田市	J A石見銀山(富山町から全域に拡大する)	水田放牧面積5.4ha	遊休、耕作放棄を中心とした水田への放牧と、集落ぐるみの取り組み拡大。	公共牧野を除く放牧面積230ha程度(精査中)。	遊休農地等を活用した無畜地域での繁殖牛経営2事例をモデルに、新たな子牛生産システムの構築に向けた取組がなされた。	現計画の最終年のため、新たな計画及び目標等を関係機関で協議し、決定する。	左記により、未定。
	松江市	鹿島和牛放牧組合	新設放牧場整備構想検討、家畜飼養頭数は76頭(2/1調査)。	次年度の事業導入を目指す。	構想は断念。組合として増頭に向けた仕組みづくりを検討。地域と連携した放牧を拡大(延べ放牧場活用面積30.9ha)。	構想の実現はかなわなかったが、地域と連携した放牧の拡大が図られた。	自給飼料増産のため、転作による飼料作物栽培を本格開始するため、機械導入の実現を図る。	耕畜連携水田活用対策事業実施(機械整備及び水田放牧面積7ha)
	安来市	J A やすぎ、財団法人安来ふるさと公社	稲わら収集面積64ha。	関係者で実施計画の検討を行い、より効率的な収集と面積拡大に取り組む。	稲わら収集面積75ha。	タイトベラ形式のため、畜産農家に好評であり、更なる拡大が望めるが、天候に左右されやすい。	耕種サイドを含めた様々な取組により効果・効率的な収集方法の確立に努める。	稲わら収集面積100ha。
	斐川町	斐川町肉用牛放牧地利用組合	水田放牧面積12ha。	耕畜連携水田活用対策事業への取り組みにより、頭数の増加にも取り組む。	水田放牧面積17.4ha。	新たに1地区で取り組みが始まるなど、波及が図られた。また、放牧牛の導入にも取り組んだ。	取組地域での牛飼養開始等、取組の拡大にあわせ、新たな飼養者の育成を図る。	水田放牧面積20ha。
	松江市	鹿島町粗飼料生産組合(仮称)	(H19新規登録)					稲発酵粗飼料栽培面積4.0ha
	岡山県	津山市	津山地域飼料生産コントラクター組合	受託面積21.1ha(17年比146%)	津山地区、奈義地区を中心に受託面積の拡大を図る。	受託面積31.7ha(18年比150%)	津山(714ha)と奈義(47ha)の作付拡大に伴い、受託面積が増加した。	米の生産調整に係る緊急対策と併せて、稲WCSの作付拡大を推進する。
	笠岡市(笠岡湾干拓)	(農)干拓コントラ	受託延べ面積102ha(トモロコシ2期作:17年比96%)	受託地と自作地で、トモロコシの大規模2期作栽培を展開する。	受託延べ面積104ha(トモロコシ2期作:18年比102%)	受託地と自作地を合わせると、延べ328ha(18年比119%)	受託地と自作地で、トモロコシの大規模2期作栽培を展開する。	受託地と自作地を合わせて、延べ328ha
	岡山市	邑久郷粗飼料生産組合	稲WCS収穫12ha、イタリアン8ha	稲WCS、牧草、ソルゴー、稲わら等、様々な飼料増産を図る	稲WCS生産面積12ha、イタリアン8ha、スーダン1ha、稲わら40ha	稲WCS収穫機械を牧草刈り等にも有効活用している。	地域が高齢化する中、大型機械を駆使して積極的に農作業を受託する。	稲WCS生産面積28ha、イタリアン8ha、スーダン1ha、稲わら40ha

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考	
				計 画	実 績	評価・課題			今後の対応
岡山県	岡山市	岡山中央稲わら収集組合	稲わら収集面積22ha	稲わら収集面積の拡大を図る他、稲WCSにも取り組む。	稲わら収集面積40ha(18年比182%) 稲WCS生産面積2ha	新規機械導入により、稲わら収集面積が大幅に拡大できた。	米の生産調整に係る緊急対策と併せて、稲WCSの作付拡大を推進する。	稲わら収集面積40ha、稲WCS生産面積5ha	
広島県	北広島町 (旧芸北町)	芸北和牛放牧部会	芸北和牛放牧部会で18haの放牧を行ったに加え、北広島町肉用牛団体連絡協議会により40haの放牧を実施した。	北広島町肉用牛団体連絡協議会で引き続き45haの放牧を実施。	芸北和牛放牧部会で24ha、北広島町肉用牛団体連絡協議会で44haの放牧を実施した。	さらなる放牧面積拡大には、放牧用資材や放牧牛の確保が必要。		耕畜連携水田活用対策事業等を活用し、さらなる放牧面積拡大に向けた資材や放牧牛の確保を行う。	
	神石高原町	神石高原町	神石高原町で延べ202.4ha分の受託作業(見込み)と5.4haの飼料イネの作付けが行われた。	飼料イネ作付け面積の拡大。コントラクターによる受託面積の拡大。	神石高原町で延べ258ha分の作業受託と8.5haの飼料イネの作付けが行われた。	需要にあった面積や労力の確保。生産コストの低減、良質な稲発酵粗飼料用稲の栽培・調整技術の確立が必要。		強い農業づくり交付金を活用して飼料イネ専用収穫機を導入するとともに、耕畜連携水田活用対策事業等を活用して飼料イネ作付け面積をさらに拡大させる。	
山口県	阿武町	阿武町	飼料稲作付面積7.9ha	耕畜連携の推進	飼料稲作付面積7.2ha	地域内での計画的な作付・利用体制の構築		飼料稲作付面積の拡大	
	長門市	長門市、 県	放牧 47カ所 4,630a	放牧の推進	放牧(12月末時点) 52カ所 4,915a	レンタカウシステムによる放牧推進		放牧の推進	
	柳井市	市内肉用牛農家	放牧 17カ所 893a	放牧の推進	放牧(12月末時点) 21カ所 1,220a	レンタカウシステムによる放牧推進		放牧の推進	
	秋芳町	地域水田農業推進協議会、他	放牧 41カ所 1,620a	放牧の推進	放牧(12月末時点) 44カ所 1,755a	レンタカウシステムによる放牧推進		放牧の推進	
徳島県	徳島市	徳島県	WCSの栽培、稲わら収集を実施し、繁殖和牛並びに肥育牛に給与。粗飼料自給率ほぼ100%達成で	WCSの作付面積拡大、品質の向上が行えるよう生産状況等の把握を行う。	WCS1ha、稲わら収集5haの収集。WCSは繁殖和牛に、稲わらは肥育牛に給与。嗜好性は良い。	飼料用イネは作付けが遅いため、ジャンボタニシの食害が深刻。	転作の増加が見込めるため、生産量の増加が見込める水田を選択する。	粗飼料の作付け、収集労力の低減に取り組む。	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
徳島県	上板町	徳島県	WCSの栽培、堆肥の農地還元により飼料を栽培し、搾乳牛へ給与し粗飼料自給率の向上と生産費が低減できた。	WCSの作付面積拡大、品質の向上が行えるよう生産状況等の把握を行う。	WCS22ha、資源循環の取組約8haで実施。京都農大との共同研究により農家の体系分析を実施。	高齢化に伴い、WCS作付け面積が低下。	耕畜連携を強化し、転作田の有効活用を図る。	搾乳牛に適した飼料用稲の品種を検討するとともに、作付け面積の拡大に取り組む。
	美馬市	美馬和牛改良組合	放牧に関する巡回指導を行い、放牧の指導を行った。	放牧に関する講演会等を開催し、放牧の指導を行う。	県西部の繁殖和牛の放牧を推進し、定期的な繁殖検診等を実施。	放牧牛の減少に伴い、放牧場の運営管理が困難となっている。	関係機関と連携し、放牧牛の確保に取り組む。	繁殖和牛の放牧を推進するとともに繁殖検診により効率的な肉牛の増産に努める。
	鳴門市	徳島県	該当なし。	WCSの作付面積拡大、品質の向上が行えるよう生産状況等の把握を行う。	飼料用イネ、イタリアン、ソルゴーの栽培および稲わらの収集を実施。台風の被害も少なく、十分な粗飼料が確保できた。	周囲がレンコンの作付けを行っており、飼料用イネの栽培には不適合である。嗜好性についてもイタリアンに比べ劣る。	飼養体系に応じて粗飼料の作付けを検討する。	飼養管理に合わせて計画的な粗飼料生産に取り組む。
香川県	高瀬町 比地二地区	比地二酪農組合	WCSを1.61ha生産した。	WCS0.9ha	WCS0.9ha	病害虫の発生等によって栽培意欲が低下気味である。	抵抗性品種等への転換など支援を行う。	WCS0.95ha。
	坂出市 林田町	有限会社古本農産	WCSを1ha生産した。地域の稲わらを15.9ha収集、4.7haを肉牛農家へ提供した。	WCS1.46ha。稲わら収集14.4ha、肉牛農家へ4.7ha提供。	WCS0.98ha。稲わら収集14.4ha、肉牛農家へ4.7ha提供。	希望するWCS専用品種子の入手ができず、作付を縮小した。	継続して支援を行う。	WCS1ha。稲わら収集14.4ha、肉牛農家へ4.7ha提供。
愛媛県	西条市	周桑・三芳飼料稲生産組合	稲発酵粗飼料の作付面積17ha。	稲発酵粗飼料作付面積の拡大。	稲発酵粗飼料作付面積13ha。	作付面積が減少した(対前年比76%)	耕畜連携による転作田の利用推進を図り、飼料作付面積の拡大を図る。	市、JA、生産者、耕種農家間の調整を図り、作付面積の拡大を図る。
	西予市	大野ヶ原寺山飼料生産利用組合	飼料生産面積37.5ha。	飼料生産面積の拡大。	ロールペーラ導入による飼料生産の拡大に取り組んでいる。	昨年と同等に取り組めた。	目標面積以上の取組を推進する。	受益農家間の連携により飼料生産の拡大に努める。
	宇和島市	三間コントラクター組合	トウモロコシ作付面積7ha。	細断型ロールペーラ導入による飼料作物の生産拡大。	トウモロコシ作付面積7ha。	昨年と同等に取り組めた。	共同で細断型ロールペーラを利用し、飼料調整を行なう。	飼料栽培技術向上のため、関係機関による技術指導や運営助言を行なう。

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
愛媛県	西予市	蔵良地区飼料増産組合	飼料生産面積52ha。	細断型ロールベアラ導入による飼料作物の生産拡大。	細断型ロールベアラ使用による飼料生産の拡大に取組んでいる。	昨年と同等に取組めた。	目標面積以上の取組を推進する。	関係機関が一体となり技術指導等を行なうことで、飼料増産に取組む。
	愛南町	広見菅農組合		飼料稲コンバインベアラ導入による飼料作物の生産。	飼料稲作付面積6.2ha、イタリアンライグラス作付面積6.4ha。	計画通りに作付けが進んだ。	耕畜連携による転作田の利用推進を図る。	関係機関が一体となり技術指導等を行なうことで、飼料増産に取組む。
高知県	土佐町	土佐町肉用牛生産組合	H18年度より預託事業を開始。 預託実頭数:87頭/年	周年肉用牛預託事業の継続 預託施設(50頭まで)の活用及び公共牧場の活用。	預託実頭数:前年度並み 預託施設の冬期稼働率はほぼ100%(50頭近く収容)	当初計画(H19末時点で、肉用牛預託頭数50頭)どおりで良好。	預託事業の継続 公共牧場の活用	預託事業の継続 公共牧場の活用
	四万十町	おきつ和牛組合	放牧面積4.0ha 肉用牛頭数5頭	放牧面積4.0haの維持	放牧面積4.8ha 肉用牛繁殖牛4頭	当初目標を上回る面積で実施。 耕作放棄地の低コスト管理と景観保全ができた。	簡易放牧により、未利用地の有効活用と、耕作放棄地の低コスト管理及び景観保全を継続。	簡易放牧の継続 放牧面積5.1haに拡大予定。
	土佐清水市	土佐清水市地域内の肉用牛生産農	耕作放棄地への放牧6ha 放牧研修会の開催	耕作放棄地の簡易放牧の推進を継続	関係者により、簡易放牧の取組みについて協議 放牧実績なし	復元した畑地の具体的利活用が画題 簡易放牧の取組推進が課題	簡易放牧の推進のための地域内協議を継続	簡易放牧の実施
福岡県	うきは市	うきは市	市内の耕作放棄地5ほ場、計170aで放牧調査を実施	耕作放棄地を活用した放牧の普及推進を図る	市内の耕作放棄地3ほ場、計200aで放牧調査を実施	当初計画を達成	市内の耕作放棄地を活用した放牧の普及推進を図る	市内の耕作放棄地2ほ場で、計300aで放牧調査を計画
	大川市	大川市畜産振興対策協議会	稲WCS生産19.6ha	現状の作付面積の拡大を図る。栽培の低コスト化を検討(疎植、直播)	稲WCS生産35.9ha	大幅に増加した。	産地づくり交付金、耕畜連携対策を活用しながら作付面積の維持を図る。	稲WCS生産36.0ha
	みやま市(旧高田町)	みやま市	町内の耕作放棄地1ほ場、計50aで放牧調査を実施	耕作放棄地を活用した放牧の普及推進を図る	耕作放棄地を活用した、繁殖和牛の放牧展示を実施。 面積約90a	計画達成	普及定着を図るため別地区での実証展示のため放牧を実施	耕作放棄地での繁殖和牛の放牧を実施 1ヶ所

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価・課 題	今後の対応		
福岡県	みやこ町	畜産農家、下高屋農作業受託組合	稲WCS生産11.2ha	現状の作付面積の拡大を図る。	稲WCS生産15.1ha	当初計画を達成	平成20年度新規取組予定地について、2月中に打合せ会議を開催予定。	現状の作付面積の拡大を図る	
	宮若市	畜産農家、直鞍農業協同組合	稲WCS生産20.5ha	現状の作付面積の拡大を図る。	稲WCS生産18.7ha	当初計画面積より減少。水不足により稲WCS作付を変更しトウモロコシを作付したため。	利用農家の拡大のため、飼料需給調整会議を2月に開催。	現状の作付け面積の拡大を図る	
	柳川市	清和会	稲WCS生産12.8ha	現状の作付面積の拡大を図る。栽培の低コスト化を検討(疎植、直播)	稲WCS生産22.2ha	大幅に増加した	産地づくり交付金、耕畜連携対策を活用しながら作付面積の維持を図る。	稲WCS生産27.0ha	
	八女市	新庄飼料生産組合	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付 5.3ha	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付拡大	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付 6.2ha	計画達成	県単事業の細断型ロールペラー給与実証調査を実施し、トウモロコシの現状面積の維持を図る。	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付 6.2ha	
	朝倉市	朝倉市	-	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付523a	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付523a	当初計画を達成	細断型ロールペラーを活用したトウモロコシの作付拡大	県単事業(トウモロコシ給与実証調査)を活用し、トウモロコシの作付拡大を図る	
	前原市	前原酪農組合	-	現状の作付面積の拡大を図る。	稲WCS生産26.4ha	当初計画を達成	利用農家の拡大を図るため、稲WCS推進会議を12月、3月に開催。	現状の作付面積の拡大を図る。(19年比105% 27.7ha)栽培の低コスト化を検討。	
	長崎県	諫早市	川内町飼料作物安定	-	稲わら収集面積139ha	稲わら収集面積139ha(見込)	精力的に活動を展開。専業化が期待される。	収集面積の拡大飼料作物生産への活動拡大	
	小値賀町	小値賀町、放牧集団等	関係機関、生産組織等で組織した、地域として放牧を推進(「島ごと放牧」)する推進協議会を設立。		入会地の利用権流動化の受け皿団体とするため、各地区放牧組合を統合し、「小値賀島ごと放牧組合」を平成20年2月に設立。	島の基幹産業を振興する観点から、全町挙げて、放牧の推進気運が高まった。	放牧地の拡大と肉用牛の維持・拡大。		

都道府県名	市町村名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
長崎県	五島市	翁頭地区五島牛ヘルパー組合	放牧延べ面積: 3.5ha 放牧頭数:16頭	放牧面積と放牧頭数の拡大	面積拡大のための地権者との調整が整わず、現状維持。	放牧と並行して、受託作業の拡大に取り組んでいる。	組織運営の指導・支援。		
	五島市	べべんこはーと飼料増産受託組	飼料作付作業:21ha 飼料収穫作業:4ha 稲わら収穫作業:10ha	飼料作付作業28ha 飼料収穫作業26ha 稲わら収集作業9ha	飼料作付作業28ha 飼料収穫作業26ha 稲わら収集作業9ha (見込)	後継者の組織として確実に実績を重ねている。	PR活動による受託作業面積の拡大		
	対馬市	JA対馬市	稲わら収穫面積: 15.5ha	稲わら収穫幹旋面積20ha	稲わら収穫幹旋面積20ha(見込)	高齢化が深刻化する地域において、確保作業の効率化を図る上で活動の重要性が増してきてい	収集面積の拡大		
	吾妻町	吾妻町	稲WCS作付面積: 9ha	稲WCS作付面積:7.8ha	稲WCS作付面積:7.8ha (見込)	専用品種チアオバの導入で収量性が向上。WCS利用者の拡大が進まない。	専用品種に応じた栽培技術による生産性の向上		
	諫早市	農事組合法人「もりやま」	-	稲わら収集面積23ha	稲わら収集面積23ha (見込)	19年度より活動を開始。			
佐賀県	伊万里市	駒鳴飼料生産機械利用組合	自給飼料生産面積 32.25ha 稲わら 31.4ha イタリアン 0.85ha	自給飼料生産面積 20.4ha 稲わら 18.05ha イタリアン 2.35ha	-	-	飼料作物の作付を推進する	自給飼料生産面積 21.45ha 稲わら 19.1ha イタリアン 2.35ha	
	伊万里市	山口飼料生産機械利用組合	自給飼料生産面積 15.1ha 稲わら 15.1ha	自給飼料生産面積 19.2ha 稲わら 18.6ha イタリアン 0.6ha	-	-	飼料作物の作付を推進する	自給飼料生産面積 20.5ha 稲わら 19.5ha イタリアン 1.0ha	
	嬉野市	嬉野地区東吉田飼料生産組合	自給飼料生産面積 16.65ha 稲わら 12.4ha スーダン、インバク、イタリアン 4.25ha	自給飼料生産面積 16.65ha 稲わら 12.4ha スーダン、インバク、イタリアン 4.25ha	-	-	飼料作物の作付を推進する	自給飼料生産面積 16.65ha 稲わら 12.4ha スーダン、インバク、イタリアン 4.25ha	
	玄海町	浅木場肉用牛組合	自給飼料生産面積 80.4ha 稲わら 59.5ha スーダン、イタリアン 23.3ha	自給飼料生産面積 81.0ha 稲わら 63.0ha スーダン、イタリアン 18.0ha	-	-	飼料作物の作付を推進する	自給飼料生産面積 81.0ha 稲わら 63.0ha スーダン、イタリアン 18.0ha	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評価・課題		
佐賀県	唐津市	高野飼 料生産 組合	自給飼料生産面積 32.12 ha 稲わら 28.0 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 4.12 ha	自給飼料生産面積 32.12 ha 稲わら 28.0 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 4.12 ha	-	-	飼料作物の作付を推進 する	自給飼料生産面積 32.12 ha 稲わら 32.8 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 5.62 ha
	唐津市	沙子飼 料生産 組合	自給飼料生産面積 16.9 ha 稲わら 10.6 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 6.3 ha	自給飼料生産面積 16.9 ha 稲わら 10.6 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 6.3 ha	-	-	飼料作物の作付を推進 する	自給飼料生産面積 17.4 ha 稲わら 10.6 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 6.8 ha
	唐津市	二反田 飼料生 産組合	自給飼料生産面積 50.9 ha 稲わら 42.9 ha ス-ダン、イ タリアン 8.0 ha	自給飼料生産面積 53.7 ha 稲わら 45.0 ha ス-ダン、イ タリアン 8.7 ha	-	-	飼料作物の作付を推進 する	自給飼料生産面積 60.4 ha 稲わら 50.4 ha ス-ダン、イ タリアン 10.0 ha
	唐津市	ぬげん谷 飼料機 械利用 組合	自給飼料生産面積 46.0 ha 稲わら 31.6 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 14.4 ha	自給飼料生産面積 47.2 ha 稲わら 32.6 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 14.6 ha	-	-	飼料作物の作付を推進 する	自給飼料生産面積 48.6 ha 稲わら 33.6 ha ソルゴ-、インバク、イ タリアン 15.0 ha
	多久市	東多久 稲ワラ部 会	-	自給飼料生産面積 46.25 ha 稲わら 37.6 ha ス-ダン、イ タリアン 8.65 ha	-	-		自給飼料生産面積 46.25 ha 稲わら 37.6 ha ス-ダン、イ タリアン 8.65 ha
	玄海町	大鳥自 給飼料 増産組 合	-	自給飼料生産面積 71.4 ha 稲わら 56.0 ha ス-ダン、イ タリアン 15.4 ha	-	-		自給飼料生産面積 72.4 ha 稲わら 57.0 ha ス-ダン、イ タリアン 15.4 ha

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
熊本県	阿蘇市	阿蘇カ テラ粗飼 料生産 組合	H18年3月:設立総 会 H19年1月末:レキ ラッピングマシン導入 稲わら収集実績:	稲わら収集:43.9ha	稲わら収集:40ha 実績は概数	おおむね達成	引き続き稲わらの収集、 販売面積を拡大する	稲わら収集:43.9ha (19年度計画比100%)	
	天草管 内	天草農 業活性 化協議 会	ニシアオバ展示ほ2 カ所(有明町、栖本 町)展示ほ面積各30 a	タチアオバ展示ほ設置	タチアオバ展示ほ設置 1箇所(展示穂面積30a) 実績は概数	タチアオバの天草管内で 作付けた場合の特性等 の確認	飼料米に対応した多収 品種の展示ほを検討	飼料米向け品種(関 東飼226号、北陸 193号)の展示ほ設 置(各30a)	
	菊池市	北吉住 不耕起 組合 洒水コ ントラク ター-利 用組合 旭志TMR 生産組 合	放牧頭数80頭	不耕起播種機導入 ハ-vester導入 TMRセンター設置 放牧頭数100頭	・不耕起播種機導入 1 台 ・自走式ハ-vester導入 2台 ・TMRセンター設立 ・菊池-阿蘇間での広域 放牧頭数63頭(実頭数)	・機械、施設の導入につ いては計画通り ・放牧頭数は、夏場のダニ 対策等から入牧頭数が 伸び悩んだ	・トモロコシ播種、作付け、 収穫面積の拡大 ・家畜保健衛生所のプロ グラムに基づくダニ駆除 を引き続き進める	・住吉不耕起組合 播 種面積:75.6ha ・TMRセンター トモロコシ作 付面積:245ha ・洒水コントラクター 収穫 作業受託面積:400ha ・広域放牧頭数:150頭	
	菊陽町	熊本市 酪農農 業協同 組合	H18年5月設立総会 H18年11月自走式 ハ-vester導入 H18年11月~ トモロ コシ収穫	受託面積:71.4ha	受託面積:57ha 実績は概数	コントラクター部門を設立して 初年目の成績、事業実 施3年後を目安に受託目 標面積の達成を図る	組合員の受託面積拡 大。員外利用への展開	受託面積:71.4ha	
	相良村	高原機 械利用 組合	H18年10月:設立総 会 H18年12月着工 H19.3月完了 ロールバ ーラー ラップマシン	飼料イネ:11.7ha 稲わら:18.9ha	飼料イネ:10.5ha 稲わら:17ha 実績は概数	おおむね達成	引き続き、水田を活用し た粗飼料の確保に努め る	飼料イネ:11.7ha 稲わら:18.9ha	
	高森町	小倉原 飼料生 産組合	H17年10月:設立総 会 H18年7月着工 H19年2月末完了 整備面積:10.9ha	放牧計画:43頭(実頭数) 放牧期間:周年	放牧頭数:40頭(実頭数) 放牧期間:4月~12月 実績は概算	おおむね達成 シバ草地を3年程度かけ て定着させる	放牧牛の増頭、シバ草 地定着に向けた管理の 実施	放牧計画:43頭(実 頭数) 放牧期間:周年	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価・課 題	今 後 の 対 応		
熊本県	高森町	中色見 自給飼 料生産 組合	H18年8月:設立総 会 H18年11月:機械導 入	粗飼料収穫面積:40.5ha	粗飼料収穫面積:32ha 実績は概算	おおむね達成	計画の目標面積、40.5ha 達成に向け、引き続き粗 飼料の作付け、収穫を実 施する	粗飼料収穫面積: 40.5ha	
	らくのう マザーズ 阿蘇ミルク 牧場	熊本県 酪農業 協同組 合連合 会	おおむね計画通り	来園者 250,000人 ふれあい体験(有無料)100,000人 手作り体験 15,000人 酪農等体験 1,500人	来園者 225,000人 ふれあい体験(有無 料)90,000人 手作り体験 13,500 人 酪農等体験 2,250 人 実績は概数	おおむね達成 体験メニューのマンネ リ化 悪天候時の体験メ ニュー開発 草地の未活用 食育の進め方 地産地消への取組	食育をふまえた体験メ ニューの開発 地元農畜産物を活用 した積極的な食の提供 放牧等による草地の 有効活用	来園者 250,000 人 ふれあい体験(有 無料) 100,000人 手作り体験 15,000人 酪農等体験 25,000人	
	阿蘇郡 市	JA阿蘇 コントラ クタ組合	稲わら堆肥交換: 20ha (推定:稲わら100t、 堆肥300t) いずれも概数	イナワラ:400t、堆肥:800t	イナワラ:125t、堆肥: 500t 実績は概数	18年度実績超だが、19年 度計画未達。今年度設 置したストックヤードを核 に、取扱量増加を図る	稲わらストックヤード設 置に伴い、稲わら堆肥交 換の拡大を図る	稲わら400t 堆肥800t	
	宇城市 不知火 町小曾 部地区	小曾部 ホールク ロップ生 産組合	稲発酵粗飼料作付 面積15.1ha(17年度 比148%) 堆肥還元面積5.8h a(17年度比88%)	稲発酵粗飼料作付面積15.1ha 堆肥還元面積5.8ha	稲発酵粗飼料作付面 積12.9ha 堆肥還元面積5ha 実績は概数	おおむね達成	組合員に変化はないた め、今年度並みの作付 けを確保する	稲発酵粗飼料作付 面積12.9ha(19年度 比100%) 堆肥還元面積5ha (19年度比100%)	
	上益城 郡内	JA上益 城	耕畜連携推進会 議の開催 稲わらと堆肥の 広域流通の開始(水 田面積10ha)	耕畜連携推進会議の開催 稲わらと堆肥の広域流通の拡大。	稲わらと堆肥の広域流 通(水田面積10ha) 実績は概数	おおむね達成	菊池-上益城関係機関 の連携による耕畜連携 の取組拡大	耕畜連携推進会 議の開催 稲わらと堆肥の 広域流通の拡大:水 田面積10ha(19年度 比100%)。	
	西原村	西原村 総合コン トラク ター組合	イナワラ収集:15ha 堆肥散布:100ha 事業(強い農業づく り交付金)による自 走式コンバインヘ スター等の導入	イナワラ収集:15ha 堆肥散布:100ha トウモロコシ収穫:20ha	イナワラ収集:20ha 堆肥散布:110ha トウモロコシ収穫:40ha 実績は概数	達成	引き続き、稲わら収集、 堆肥散布作業に加え、ト ウモロコシ収穫作業の受託 を行う。	イナワラ収集:20ha (19年度比100%) 堆肥散布:110ha(19 年度比100%) トウモロコシ収穫:50ha	
	湯前町	湯前酪 農組合 熊本県た ばこ耕作 組合湯 前支部	受託面積6.94ha	受託面積8ha	受託面積8ha 実績は概数	おおむね達成	前年に引き続き耕畜連 携を進め、稲WCS作付 け、利用を進める	受託面積8ha	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度			20年度(計画)	備考	
				計画	実績	評価・課題			今後の対応
熊本県	天草市	有明西 地区飼 料生産 組合	-	H19.6月設立 稲WCS専用収穫機 自走式ラップマシン 導入	H19.12月機械導入 稲WCS専用収穫機 1 台 自走式ラップマシン 1台	計画通り	事業計画に基づいた稲 WCSの作付け、収穫	稲WCS作付面積 12.7ha	
	天草市	倉岳町 飼料生 産組合	-	-	-	-	-	飼料収穫調製用機 械導入 ロールバレー、ラップマ シン、積込機 3台	
	天草市	北山浦 飼料生 産組合	-	-	-	-	-	飼料収穫調製用機 械導入 ロールバレー 2台	
	天草市	平床飼 料生産 組合	-	-	-	-	-	飼料収穫調製用機 械導入 ロールバレー、ラップマ シン 2台	
	苓北町	榎谷機 械利用 組合	-	-	-	-	-	飼料収穫調製用機 械導入 ロールバレー、テッダ ーレーキ 2台	
大分県	国東市 国東町	国東町 飼料生 産組合	コントラクターによ る受託面積は前年 度(45ha)並み。	他作物の受託及び他部門の受託	コントラクターによる受 託面積は前年度(44.34 ha)並み。	飼料収穫作業の効率化 多品種作付による収穫 時期の期間延長	受託面積の拡大	飼料調製用機械の 導入。(強い農業づ くり交付金事業) コントラクターによ る受託面積51.34ha (19年比15.8% 増)。	16年度 【構畜連 携】 19年度 【稲発酵飼 料の増産】
	豊肥地 域 (旧竹田 直入地 域)	関係町・ 農協・県 等	利用率が低下した 草地の問題点等の 実態調査及び県単 事業による草地活 性化対策の実施。	利用率が低下した草地の問題点等 の実態調査及び県単事業による草地 活性化対策の実施。	畜産農家等の連携によ る公共牧場の活性化	当初計画を達成	利用率が低下した草地 の問題点等の実態調査 及び事業による草地活 性化対策の実施。	放牧地の条件整 備。(強い農業づ くり交付金事業) 放牧地面積の増 加。19年比1.7ha 増)	16年度 【放牧】
	北部地 域 (旧西高 地域)	豊後高 田営農コ ントラク ター	稲わら収集に加 え、牧草栽培及び堆 肥散布の実施 供給契約の文書化 (3年間)	稲わら収集に加え、牧草栽培及び堆 肥散布の実施 飼料作物実証展示圃栽培の実施	コントラクターによる受 託面積は前年度(稲わ ら170ha・堆肥散布10 ha(麦わら含む))並み。	当初計画を達成	他作物の受託及び他部 門の受託	稲わら収集に加 え、牧草栽培及び堆 肥散布の実施(目 標:稲わら200ha) 飼料作物栽培の実 施	16年度 【コントラ クターの活 用】

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
大分県	豊後大 野市	豊後大 野市	-	-	-	-	-	堆肥舎、堆肥調整 攪拌用機械の整備。 推進会議の開催や 耕畜連携モデル地 区立ち上げを行う。	20年度 【その他； 耕畜連携 の強化】
	玖珠町	(有)グ リーン ストック 八幡	-	-	-	-	-	飼料調製用機械の 導入。(強い農業づ くり交付金事業) コントラクターによ る受託面積55ha(19 年比23%増)。	20年度 【国産稲わ らの利用 促進】 【放 牧の推進】 【草地の更 新による 単収向上】 【コンラク ターの活 用】
宮崎県	えびの 市	(有)なが え村生産 組合	稲わら収集:20ha イタリアン:10ha 堆肥運搬:20ha 堆肥散布:20ha 飼料イネ栽培:2ha	稲わら収集:20 ha イタリアン:10 ha 堆肥運搬:20 ha 堆肥散布:20 ha 飼料イネ栽培:3 ha	稲わら収集:20 ha イタリアン:10 ha 堆肥運搬:20 ha 堆肥散布:20 ha 飼料イネ栽培:3 ha	作業に対する労働力が 確保できず、迅速な堆肥 散布、耕起ができず苦情 等が発生	粗飼料販売収益の増加 により、労働力の要とな る專業オペレーターの確保 に努める。	稲わら収集:20 ha イタリアン:12 ha 堆肥運搬:24 ha 堆肥散布:24 ha 飼料イネ栽培:5 ha	
	都城市	農事組 合法人 夢ファ ームた るぼ う	飼料作物栽培面積: 19.5ha	飼料作物栽培面積:20.0ha	飼料作物栽培面積: 29.1ha	長期利用権設定の拡大 による経営基盤の安定 化	長期利用権設定の拡大 による経営基盤の安定 化	飼料作物栽培面積: 25.0ha	
	都城市	霧島コ ンラク ター組 合	・左記機械導入と組 合設立 ・コントラクターによ る受託面積57ha	コントラクターによる受託面積70ha	コントラクターによる受 託面積79ha	・受託面積については計 画に対して順調な伸びを 示している。 ・その一方で、燃料費の 高騰が運営を圧迫。 ・組合経営の強化のた め、一層の受託面積の 拡大が必要。 ・法人格を有しないため に、雇用するオペレー ターに対しての社会補償 制度がない。	・受託面積の拡大につ いては、北諸地域だけでな く、近隣への活動地域の 拡大を積極的に行ってい く。 ・その上で、経営の強化 のために、法人化を目指 す。	コントラクターによる 受託面積90ha	

都道府県名	市町村名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備考
				計画	実績	評価・課題	今後の対応		
宮崎県	宮崎市他	JA宮崎中央	シエイファームによる稲わら収集面積31ha	水稲作付面積を考慮して、昨年度並み(約30ha)の実績を見込んだ	稲わら収集面積23.57ha	天候に左右され、早期稲わらの収集実績が落ち込んだ。		稲わら収集30ha	
	小林市	細野ファーム大地	水稲:18ha イタリアン作業:17.6ha サイレージ作業:1.5ha コントロール作業:7ha	水稲:15ha イタリアン作業:14ha サイレージ作業:3ha コントロール作業:8.9ha	水稲:15ha イタリアン作業:15ha サイレージ作業:0.5ha コントロール作業:9ha	作業面積の拡大、団地化が進まず効率化が図れてない。コスト圧縮をしているが利用者が拡大しない。	法人の機械が不十分であり、再委託の労働力を得るため料金を下げないが、便利さ周知し利用者を募る	水稲:15ha イタリアン作業:20ha サイレージ作業:6ha コントロール作業:15ha	
鹿児島県	霧島市 始良町 湧水町	認定農業者	耕畜連携推進対策64ha 事業対象20名	耕畜連携対策事業実施面積:67ha (18年比105%) 対象者:22人 (18年比110%)	耕畜連携対策事業実施面積:50ha (計画比75%) 対象者:22人 (計画比100%)	対象者は増加したが、取組面積は助成要件にあてはまらない場所があったため計画比75%にとどまった。	対象者の増加及び対象面積の拡大を推進する。	耕畜連携対策事業実施面積:78ha (19年比156%) 対象者:25人 (19年比114%)	
	(有)きつねヶ丘牧場	パスチャードリルによる不耕起播種 飼料畑:10.5ha 放牧地:12ha 周年放牧の実施	パスチャードリルによる不耕起栽培 飼料畑:10.5ha (18年比100%) 放牧地:12.0ha (18年比100%) 放牧期間 周年	パスチャードリルによる不耕起栽培 飼料畑:10.5ha (18年比100%) 放牧地:12.0ha (18年比101%) 放牧期間 周年	適期追播等によりパビアグラス、イタリアンライグラス等生育良好であった。	適期播種・施肥等による増収を図り、自給率の向上に努める。	パスチャードリルによる不耕起栽培 飼料畑:10.5ha (18年比100%) 放牧地:12.0ha (18年比101%) 放牧期間 周年		
	屋久町 上屋久町	屋久町黒崎地区和牛生産グループ等	未利用地の集積による放牧と定期的な草地管理の実施	未利用地の放牧利用(4ha)	・未利用地の集積による放牧 ・放牧と定期的な草地管理の実施	未利用地が有効利用され、周年放牧が可能となった。今後は定期的な草地管理が必要。	草地の適正管理により、種子を定着させ、草地の改善を図り、飼料自給率の向上を図る。	・未利用地の集積による放牧。 ・放牧と定期的な草地管理の実施。	
	志布志市農業公社松山事業所(旧(財)松山町農	飼料収穫調整受託面積延べ:667ha	収穫調整及び堆肥散布作業の一層の効率化 計画面積 675ha	飼料収穫調整作業受託面積延べ 670ha (12月末現在見込み)	12月末現在で前年並の見込み。 春作での利用を一層推進する。	・機械の導入により、収穫調整及び堆肥散布作業のより一層の効率化が図られた。 ・受託面積の拡大の推進。	収穫調整及び堆肥散布作業の一層の効率化を図ることで、受託面積の拡大を推進する。	作業受託面積延べ 680ha	
	肝付町	甫与岳粗飼料生産組合	稲わら:60ha トウモロコシ:3.5ha ソルゴー:3ha スーダン:9ha エン麦:18ha イタリアン:20ha	稲わら:50ha スーダン:9ha ソルゴー:4ha エン麦:20ha えん麦イタリアン混播:40ha	稲わら:50ha とうもろこし・ソルゴー混播:8ha スーダン:18ha エン麦:33ha えん麦・イタリアン混播:39ha	・作付面積の拡大 ・単収増等によるコスト低減	・水田裏作の利用拡大(とうもろこし) ・コントラクター組織の拡充	稲わら:60ha とうもろこし:15ha ソルゴー:10ha エン麦:60ha イタリアン:20ha	

都道府 県名	市町村 名	実施者	18年度(実績)	19年度				20年度(計画)	備 考
				計 画	実 績	評 価 ・ 課 題	今後の対応		
鹿児島 県	志布志 市	曾於南 部自給 飼料推 進協議 会 (有)坂 本	-	トモロコシサイレージの供給 計画面積:80ha	収穫前の台風の影響に より目標を下回った。 実績:70ha	肉用牛農家でのトモロコシ サイレージ給与技術の確立 が必要である。	地域産粗飼料の生産・ 加工・流通・給与体系を 確立することにより地域 の自給飼料生産供給体 制を整備する。	トモロコシサイレージの供 給 計画面積:80ha	
沖縄県	粟国村	粟国村	採草地2haを放牧 するため電牧利用。	繋牧中心で飼養されている粟国村に おいて、電気牧柵を用いた放牧を村 民牧場において実証展示し、畜産農 家への電牧の普及を図る。牧区分け を行い、集約放牧を実施する。今回、 追加2,全7牧区、それぞれ10日前後 放牧	放牧地3ha、15頭~2 2頭放牧実施	実証展示に対して畜産農 家の反応が鈍いため、効 果的な実証展示方法を 検討する必要がある。	啓蒙普及活動方法につ いて再検討を要する。	平成20年5月開催 予定の「自給飼料増 産戦略会議」におい て検討する。	
	伊江村	JA沖縄	TMR供給開始。	肥育に最適なTMR飼料の検討 自給飼料活用型TMRへの転換指導	畜産研究センターによ り、飼料設計に取組中。	取りまとめ中	検討中	平成20年5月開催 予定の「自給飼料増 産戦略会議」におい て検討する。	
	伊是名 村	伊是名 村	サトウキビ梢頭部回 収機デモンストレー ション実施	未利用資源活用を図るため、補助事 業等活用によるサトウキビ梢頭部回 収機導入についての検討	平成20年度当初予算 措置を図ろうとしたが不 可となる。	自己資金のみの対応は 難しいため、再度機械導 入の必要性について検 討を要する。	本機械の必要性を再度 検討する必要がある。 平成21年度予算措置に 向けて再度検討を要す る。	平成20年5月開催 予定の「自給飼料増 産戦略会議」におい て検討する。	